

2016年3月卒業予定者の 就職活動に関する 調査

2015年5月1日状況 株式会社アイデム 人と仕事研究所

Pick Up
ピックアップ

「内定あり」16.4%

前年同期比（解禁日2ヵ月後）

4倍のペース

アイデム 人と仕事研究所

WEBサイトでは、採用活動のヒントとなる情報を発信しています

<http://apj.aidem.co.jp/>

人と仕事



「就職活動に関する調査」 「新卒採用に関する調査」 ▶ 学生と企業の「今」がわかります
コラム「新卒採用のゲンバ」 ▶ 企業の採用活動の工夫・取組事例を紹介

株式会社アイデム

〒160-0022

東京都新宿区新宿1-4-10

アイデム本社ビル

お問い合わせ

▶ 広報担当 /

望月・栗木

tel.03-5269-8780

kouhousitu@aidem.co.jp

▶ 調査担当 /

岸川・菊地

結 果 概 要

2016 就職活動に関する調査 (2015年5月1日状況)

進捗状況

▶ 就職活動の進捗状況

【主な活動】

「面接・試験段階」…………… 42.0%
「エントリー活動段階」…………… 36.7%

【最も進みが早い企業の状況】

「面接・試験段階」…………… 70.2%
「エントリー活動段階」…………… 22.5%

▶ 内定獲得状況

5/1時点で「内定あり」の学生は16.4%と、先月から
12.3ポイント上昇
解禁日2カ月後のペースとしては、昨年の4倍
(2014年1月末調査と比較)

▶ 応募・選考企業数

会社説明会参加回数
平均19.0回 (4/1 調査: 平均12.7回)
選考採用に応募した企業数
平均21.5社 (4/1 調査: 平均23.0社)
エントリーシート・履歴書提出企業数
平均9.0社 (4/1 調査: 平均4.6社)

▶ 行った準備・対策

「就活ナビサイトへの登録」…………… 89.0%
「自己分析」…………… 66.4%
「個別企業の説明会・セミナーへの参加」 62.7%
「エントリーシート対策」や「試験対策 (筆記・面接・適性)
が大幅に増加

▶ 1日の活動時間

「就職活動」に費やす時間は4.3時間で、4/1 調査と
変わらず
「学業」に費やす時間は3.0時間で、春休み明け1ヵ月
経過も (4/1 調査の2.4時間から) 微増

▶ 現在選考中の企業数

「1~4社」…………… 50.4%
「5~9社」…………… 25.2%
「10社以上」…………… 16.9%
平均「5.9社」
大企業志向の学生は、選考中の企業数が多い傾向

▶ 新たな応募予定

【新たに企業に応募する予定】

「ある」…………… 78.2%

【新たに応募する際に変更・広げる条件】

「業界」…………… 68.2%
「職種」…………… 51.9%
「勤務地」…………… 32.0%

▶ 活動終了見込み

「8月末頃まで」…………… 37.3%
「9月末頃まで」…………… 17.5%
「7月末頃まで」…………… 16.2%

▶ 5月までの進捗感

「予定よりも進んでいない」…………… 47.8%
「予定通り」…………… 38.1%
「予定よりも進んでいる」…………… 14.1%
「予定よりも進んでいない」学生と「順調に進んでいる
(予定通り+予定よりも進んでいる)」学生は半数ずつ

企業選定の志向

▶ 企業規模に対する志向

「大企業志向」…………… 51.0%
「中小企業志向」…………… 32.2%
「こだわりなし」…………… 16.8%

▶ 企業選定時に重視するもの

「事業内容」「会社・社員の雰囲気」「職種」「業界」
「採用担当者の人柄」「勤務地」
2015年卒学生と比較すると「年間休日数」
「教育・研修制度」「採用担当者の人柄」
「有給休暇取得率」「育児・介護支援」等をより重視
している傾向

▶ 志望業界

男性は「メーカー」「商社」「ソフトウェア・通信」
女性は「メーカー」「サービス」「商社」

▶ 志望職種

男性は「営業系」「企画系」「事務・管理系」
女性は「事務・管理系」「企画系」「営業系」

学生の意識

▶ 企業に評価される自信があるもの

「人柄・性格」「学生時代の課外活動」
「身だしなみ・立居振る舞い」
企業が3番目に重視している「志望動機」に自信が
ある学生は、わずか11.8%

▶ 働く上で大切にしたいもの

「給与」<「仕事の内容」<「働きやすさ」
2015年卒学生と比較すると、「働きやすさ」を重視
する傾向

▶ 相談相手

「友人」…………… 74.1%
「父親・母親」…………… 46.9%
「先輩」…………… 32.0%

N D E X

●	調査概要	p. 4
1	就職活動の進捗状況	p. 5
2	内定獲得状況	p. 6
3	企業規模に対する志向	p. 7
4	1日の活動時間	p. 8
5	就職活動の準備・対策	p. 9
6	会社説明会参加回数	p.10
7	志望業界	p.11
8	志望職種	p.12
9	応募企業数	p.13
10	エントリーシート・履歴書提出企業数	p.14
11	面接選考企業数	p.15
12	現在選考中の企業数	p.16
13	企業への新たな応募予定(5月)	p.17
14	新たに企業に応募する際に変更または広げる条件	p.18
15	5月までの就職活動の進捗感	p.19
16	就職活動終了見込み時期	p.20
17	働く上で大切にしたいもの	p.21
18	企業に評価される自信があるもの	p.22
19	身につけている社会人基礎力	p.24
20	就職活動における相談相手	p.26
21	キャリアアンカー	p.27
22	企業選定の際に重視するもの	p.28
23	企業選定の際に重視するもの<男女別>	p.30
24	就職活動での不安	p.33

調査概要

調査目的

2015年5月1日時点における就職活動の準備・進捗状況等から、就職活動を行う学生の実態を明らかにすること

調査対象

2016年3月卒業予定で、民間企業への就職を希望している大学4年生・大学院2年生の男女

調査方法

インターネット調査

調査期間

2015年5月1日～7日

有効回答

659名

「JOBASS 新卒 2016」登録学生（330名）、株式会社クロス・マーケティングのアンケートモニター（329名）

※本調査は小数点以下第2位または第3位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合があります。
 ※「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示しています。

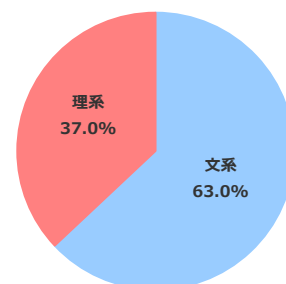
居住地域	回答数	(%)
北海道・東北地方	32	4.9
関東地方	261	39.6
北陸・甲信越地方	16	2.4
東海地方	41	6.2
近畿地方	237	36.0
山陰地方	26	3.9
四国地方	3	0.5
九州地方	43	6.5
合計	659	100.0

専攻	回答数	(%)
文系	474	71.9
理系	185	28.1
合計	659	100.0

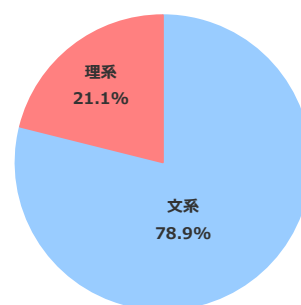
所属サークル	回答数	(%)
文化系	230	34.9
体育会系	151	22.9
イベント系	39	5.9
無所属	239	36.3
合計	659	100.0

性別	回答数	(%)
男性	289	43.9
女性	370	56.1
合計	659	100.0

男性



女性



就職活動の進捗状況

学生に、2015年5月1日時点の就職活動において、“現在行っている<主な活動>”を聞いた。

「面接・試験段階」と回答した学生が最も多く、42.0%に上った。先月最も多かった「エントリー活動段階」と回答した学生は、36.7%となっている。

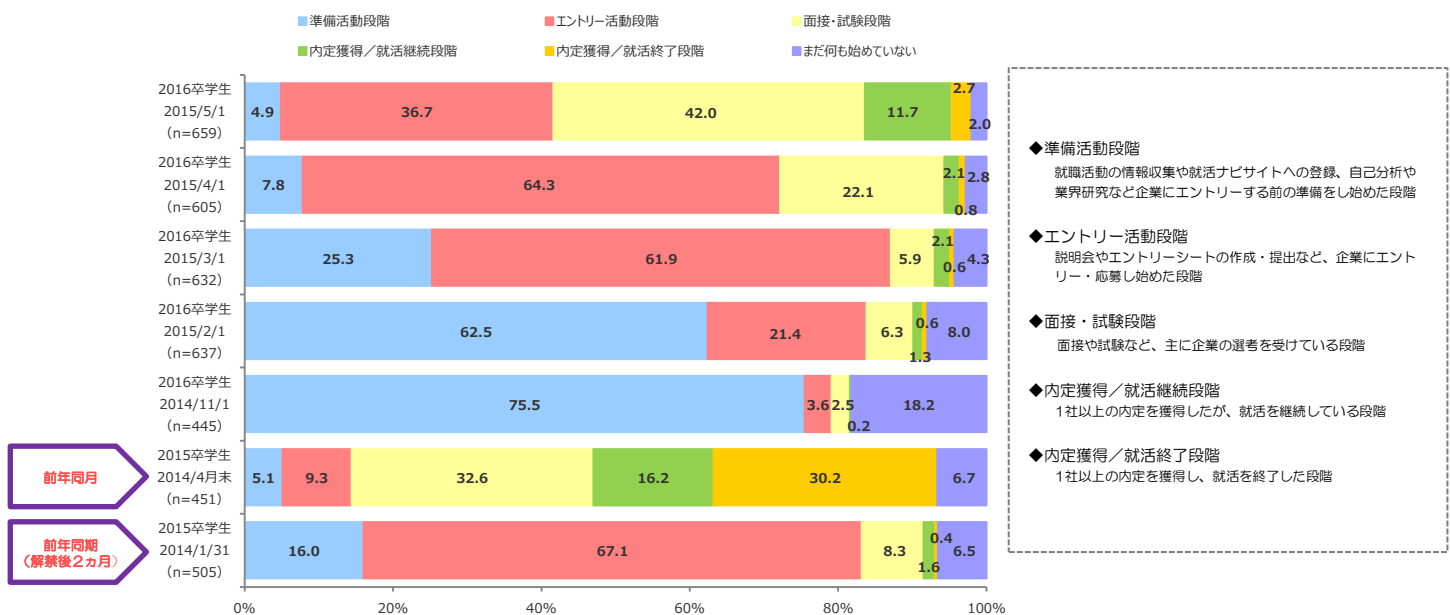
企業へのエントリーが進み、多くの学生が面接・試験段階に突入したことから、就職活動が本格化した様子がうかがえる。

また、「前年同月」の調査（「2015年3月卒業予定者の就職活動に関する調査 2014年4月末状況」）と比較した。前年同月（4月末）は、前年度の2015年卒学生の就職活動における選考開始日（4月1日）から1ヵ月後にあたり、内々定・内定を持つ学生が約半数を占める時期であった。その状況と比較すれば、今年はまだ就職活動の前半戦といったところである。

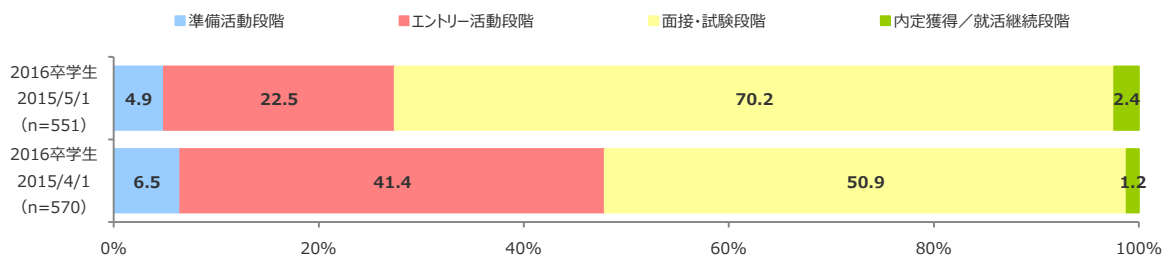
しかし、前年の採用広報活動の開始約2ヵ月後の調査（「2015年3月卒業予定者の就職活動に関する調査 2013年1月末状況」）と比較すると、今回の調査は「準備活動段階」や「エントリー活動段階」の学生の割合が低く、「面接・試験段階」以降に進んでいる学生の割合が高い。本年は、エントリー活動から選考段階への移行が急速に進行しているようだ（図1.1）。

また、<主な活動>において「準備活動段階」「エントリー活動段階」「面接・試験段階」のいずれかを回答した学生に対し、<最も進みが早い企業の状況>を聞いた。「準備活動段階」4.9%、「エントリー活動段階」22.5%、「面接・試験段階」70.2%となり、7割を超える学生が「面接・試験段階」に進んでいる（図1.2）。

【図1.1】現在の就職活動のステータス<主な活動>



【図1.2】現在の就職活動のステータス <最も進みが早い企業の状況>

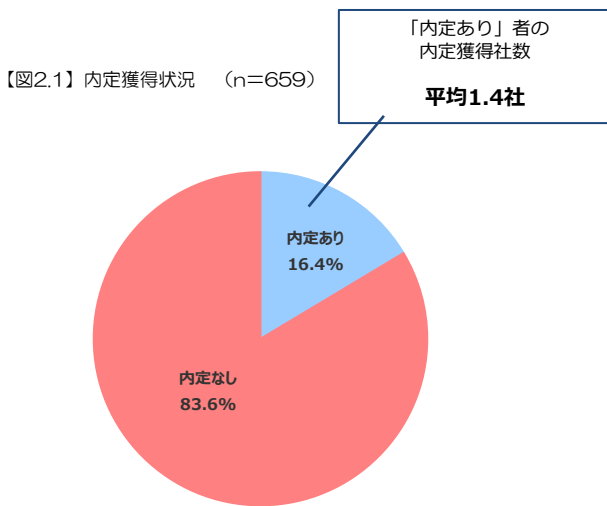


内定獲得状況

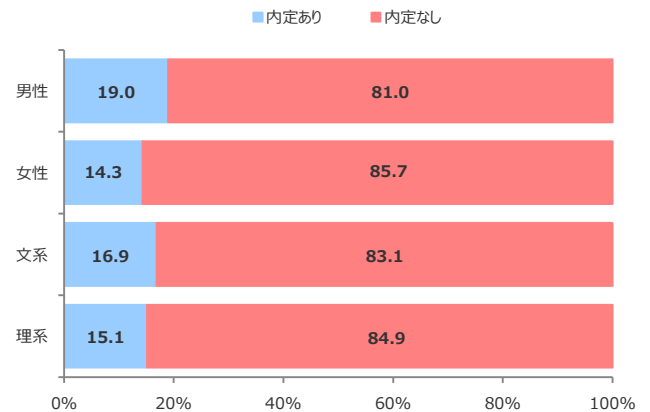
「図1.1 現在の就職活動のステータス<主な活動>」において、「内定獲得/就活継続段階」または「内定獲得/就活終了段階」と回答した学生、もしくは「図1.2 現在の就職活動のステータス<最も進みが早い企業の状況>」において、「内定獲得/就活継続段階」と回答した学生を合わせ、内定の獲得状況を集計した。5月1日時点で内定を獲得している学生は、全体の16.4%となっている（図2.1）。

また、2016年卒学生、2015年卒学生の内定獲得状況を時系列で比較した。就職活動の採用広報・選考活動時期の繰り下げが行われた本年の特徴は、採用広報活動の解禁日である3月1日までに一定数の内々定・内定保有学生が存在しており、かつその割合も前年度より高いことである。

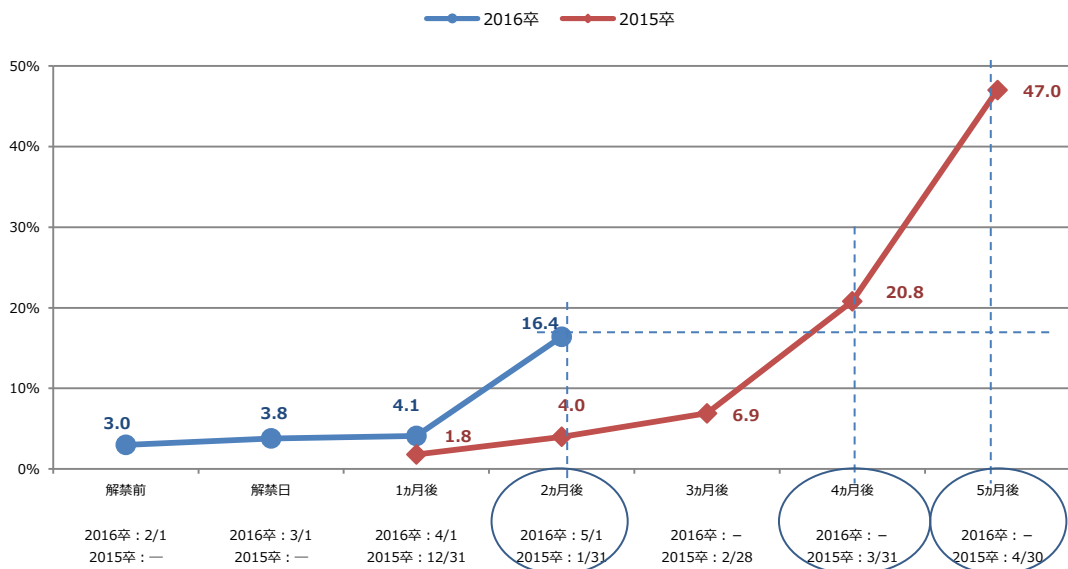
また、2015年卒学生と2016年卒学生の採用広報活動開始後2ヵ月間の動きを比較すると、内定獲得状況は「2015卒：1/31」が4.0%だったのに対し、本年「2016卒：5/1」では16.4%と、4倍（10ポイント以上）の開きが生じている。本年は、採用広報活動開始から2ヵ月しか経過していないにもかかわらず、2015年卒学生の4ヵ月後に迫る状況となっている（図2.3）。



【図2.2】内定獲得状況：属性別（n=659）



【図2.3】内定獲得状況：2015卒学生との比較



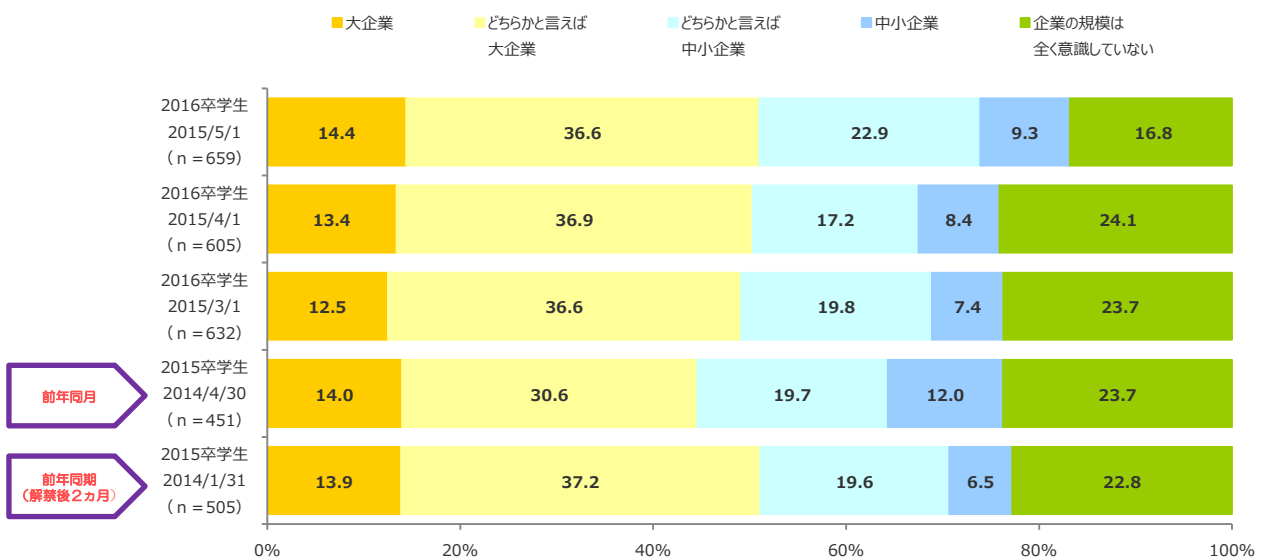
企業規模に対する志向

学生に、就職活動を行うにあたり、大企業と中小企業のどちらを志望する気持ちが強いかを聞くと、「大企業」「どちらかと言えば大企業」を合わせた回答が51.0%に上った。「中小企業」「どちらかと言えば中小企業」と回答した者は合わせて32.2%、「企業の規模は全く意識していない」者は16.8%となっている。前回の4月1日状況調査と比較すると、大企業志向者が微増、中小企業志向者が増加し、企業規模を全く意識していない者が減少している（図3.1）。

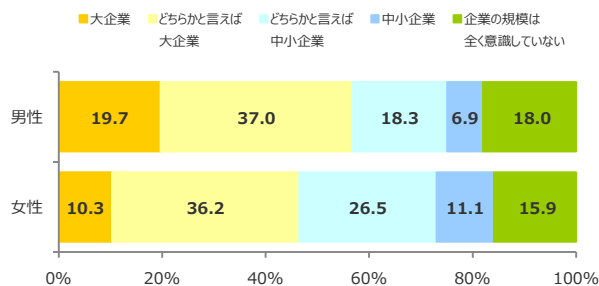
男女別で見ると、男性は大企業志向者が56.7%と、女性の46.5%よりも約10ポイント高い（図3.2）。

文理別で見ると、大企業志向者の割合は文系で49.2%、理系で55.7%となり、理系の方が若干高くなっている（図3.3）。

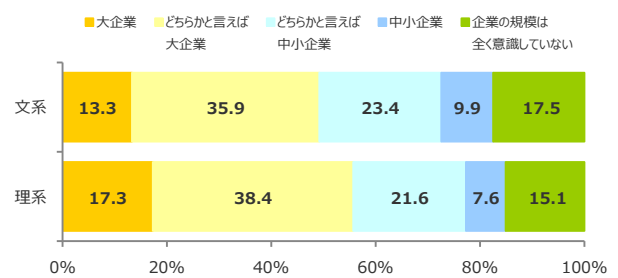
【図3.1】企業規模に対する志向



【図3.2】企業規模に対する志向：男女別 (n=659)



【図3.3】企業規模に対する志向：文理別 (n=659)



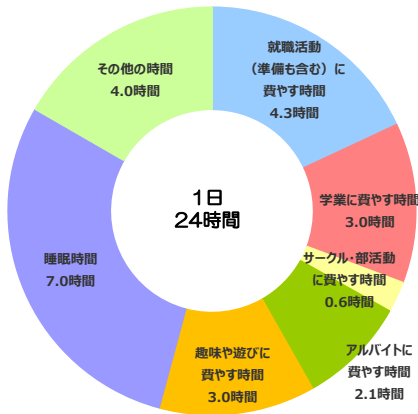
1日の活動時間

学生に、現在、1日のうち「就職活動」「学業」「サークル・部活動」「アルバイト」「趣味や遊び」「睡眠」にどのくらいの時間を費やしているかを聞き、平均化した。結果は、「就職活動」4.3時間、「学業」3.0時間、「サークル・部活動」0.6時間、「アルバイト」2.1時間、「趣味や遊び」3.0時間、「睡眠」7.0時間となった(図4.1)。

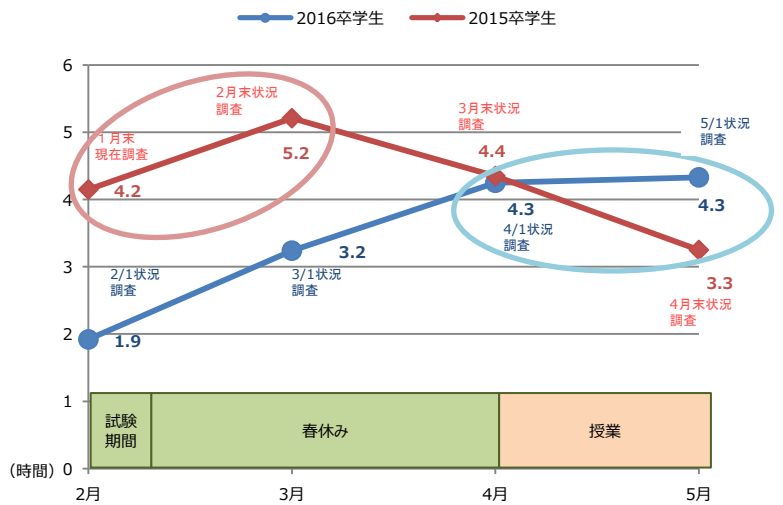
前回の4月1日状況調査からほぼ変化はなく、「学業」に費やす時間の微増がみられた程度であった(図4.2)。

また、2015年卒学生と2016年卒学生の就職活動と学校スケジュールの重なりを見ると、2015年卒学生は、採用広報活動開始から2ヵ月程度経過した2月~3月の春休み期間中に就職活動のピークを迎えていた。しかし、2016年卒学生においては、採用広報活動開始1ヵ月後が授業開始時期となったせいか、就職活動に費やす時間は増加していない。学業と就職活動の両立については、難しさもあるようだ(図4.3)。

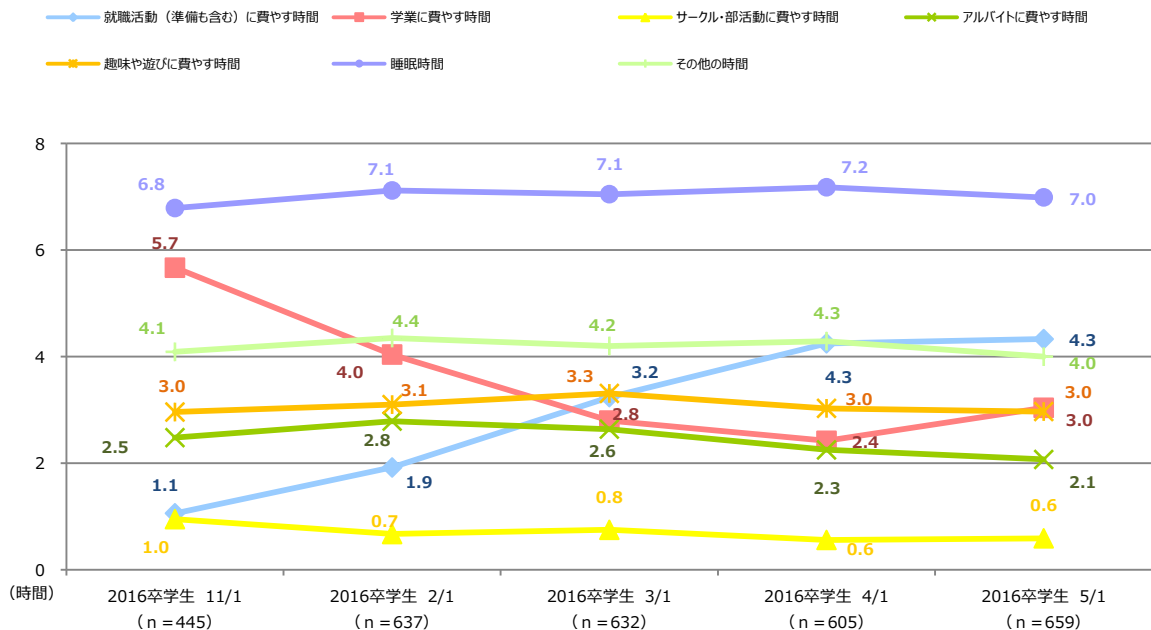
【図4.1】1日の活動時間／平均 (n=659)



【図4.3】「就職活動(準備も含む)に費やす時間」の推移
2015年卒学生との比較



【図4.2】1日の活動時間の推移／平均

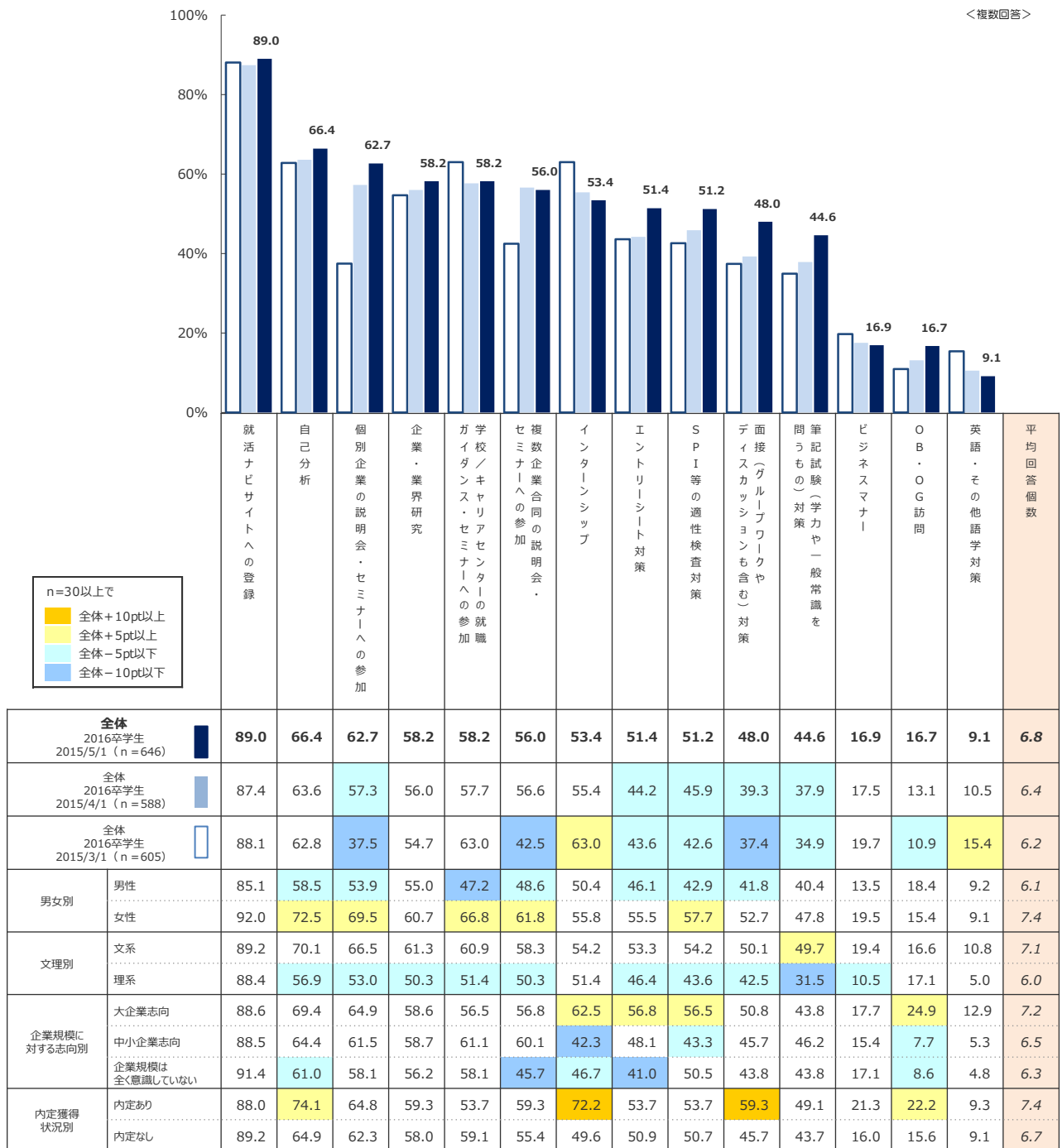


就職活動の準備・対策

「1 就職活動の進捗状況」において、「まだ何も始めていない」以外の回答をした学生に対し、5月1日までに
行った就職活動の準備・対策を聞いた。就職活動の準備・対策で行ったものとして、多かった順に「就活ナビサイトへの登録」89.0%、「自己分析」66.4%、「個別企業の説明会・セミナーへの参加」62.7%、「企業・業界研究」58.2%、「個別企業の説明会・セミナーへの参加」58.2%となっている。

前回の4月1日状況調査と比較すると、「面接対策」や「筆記試験対策」「エントリーシート対策」を挙げた学生の割合が大きく増加し、選考が本格化している様子がうかがえる。また、この時期に内定を獲得している学生は「面接対策」や「自己分析」に力を入れていた。加えて、「インターンシップ」「OB・OG訪問」等、早くから企業と接点を持つ活動も行っている(図5)。

【図5】就職活動の準備・対策で行ったもの



会社説明会参加回数

「5 就職活動の準備・対策」において、「複数企業合同の説明会・セミナーへの参加」もしくは「個別企業の説明会・セミナーへの参加」を回答した学生に対し、5月1日までに参加した会社説明会・セミナーの回数を聞いた。

結果は、「30回以上」が23.6%、「20～29回」が21.4%となっている（図6.1）。

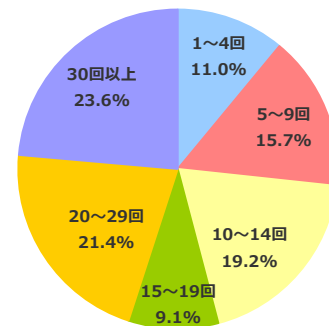
また、平均参加回数の推移を見ると、4月1日状況調査の平均12.7回から、今回は19.0回と大幅に増加している（図6.2）。

男女別に見ると、男女ともに増加傾向にあるが、特に女性は平均11.8回から19回へ大幅な増加となっている（図6.3）。

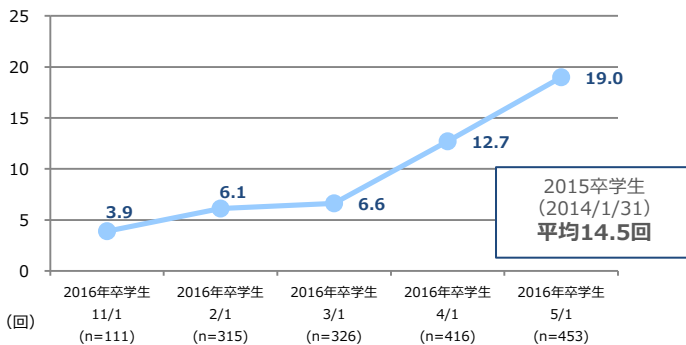
文理別に見ると、文系は4月1日状況調査の平均13.7回から20.6回へと増加し、理系よりも増加幅が大きい（図6.4）。

企業規模に対する志向別に見ると、「大企業志向」の学生で大幅な増加となっている（図6.5）。

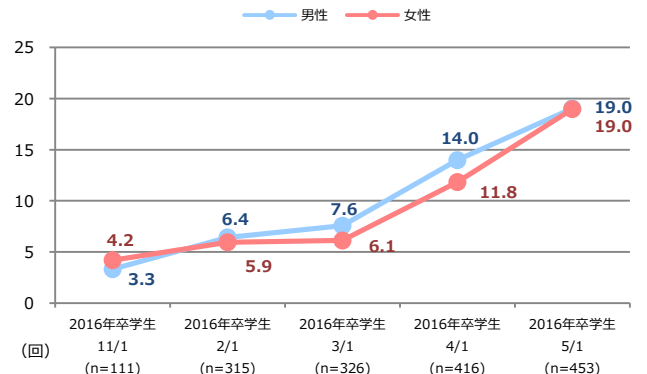
【図6.1】会社説明会参加回数/回答分布（n=453）



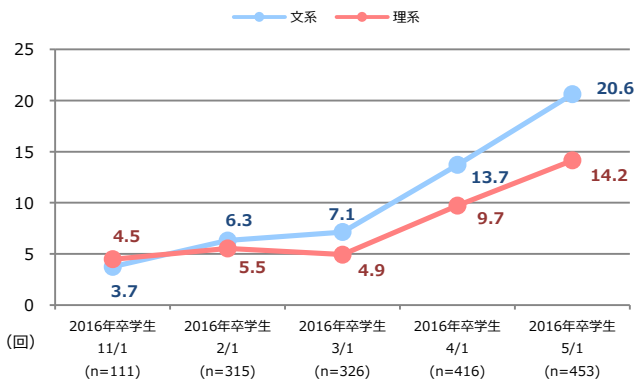
【図6.2】会社説明会参加回数の推移/平均（n=453）



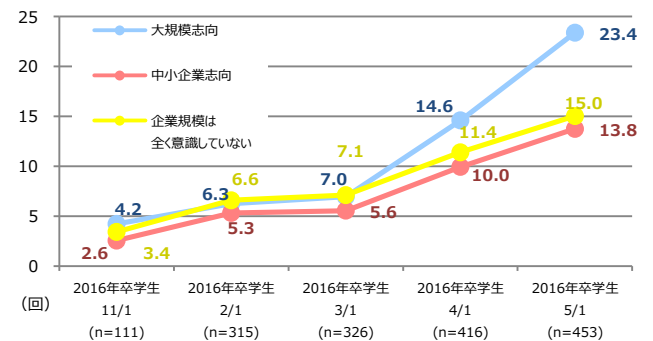
【図6.3】会社説明会参加回数の推移/平均：男女別（n=453）



【図6.4】会社説明会参加回数の推移/平均：文理別（n=453）



【図6.5】会社説明会参加回数の推移/平均：企業規模に対する志向別（n=453）



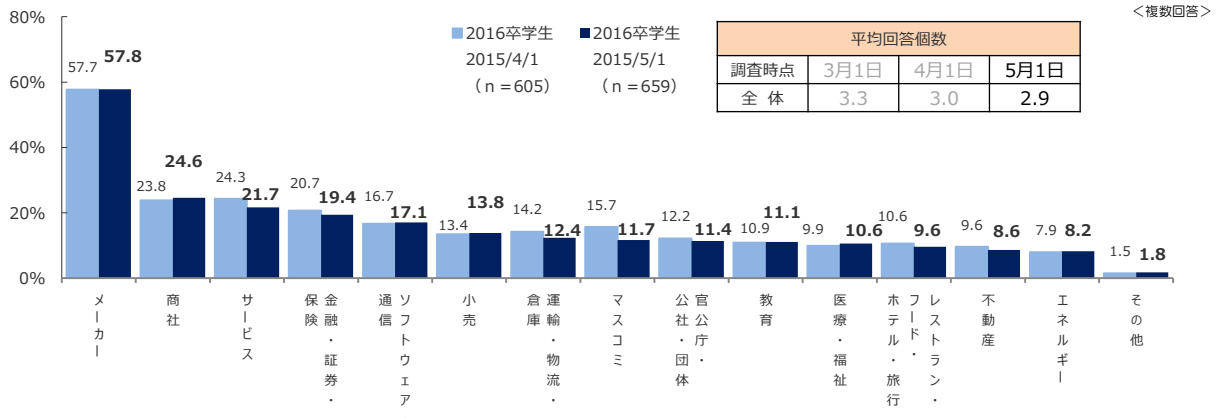
志望業界

学生に志望業界について聞くと、回答が多かった順に「メーカー」57.8%、「商社」24.6%、「サービス」21.7%となった。前回の4月1日状況調査と比較してもほぼ変わらず、学生の志望が定まってきたように思われる（図7.1）。

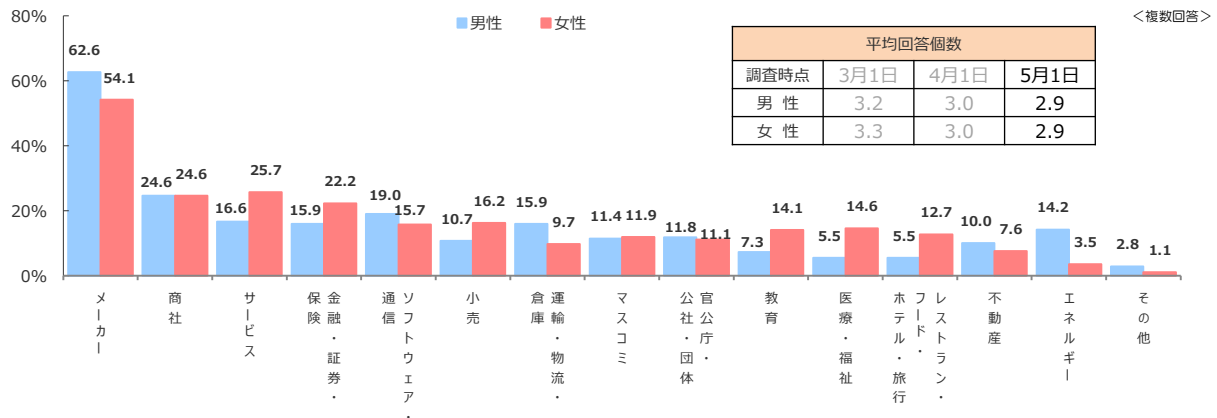
男性では、回答が多い順に「メーカー」「商社」「ソフトウェア・通信」、女性では「メーカー」「サービス」「商社」となっている（図7.2）。

文理別に見ると、理系は「メーカー」の志望者が突出して多く、69.7%に上る。以降は「ソフトウェア・通信」「医療・福祉」となっている。文系も、理系ほど志望者の割合は高くないが、最多は「メーカー」となり、「商社」「サービス」と続いている（図7.3）。

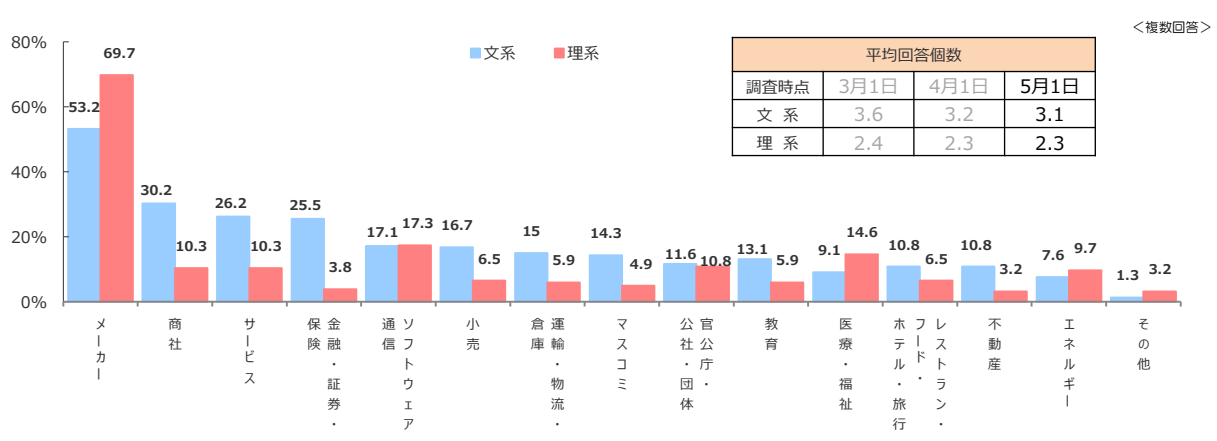
【図7.1】 志望している業界はどこか



【図7.2】 志望している業界はどこか：男女別 (n=659)



【図7.3】 志望している業界はどこか：文理別 (n=659)



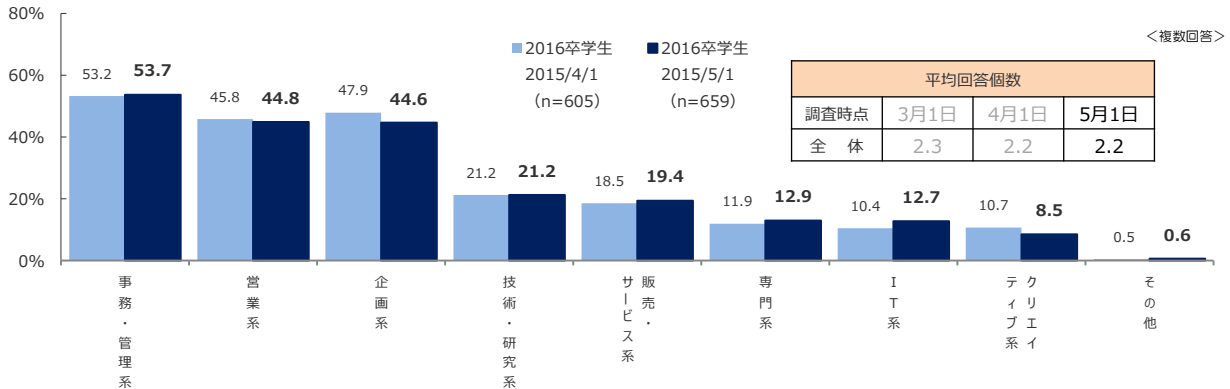
志望職種

学生に志望職種について聞くと、「事務・管理系」が最も高く53.7%、次いで「営業系」が44.8%、「企画系」44.6%となった（図8.1）。平均回答個数も前回と変わらず、志望業界と同様に志望職種が定まってくる様子が見える。

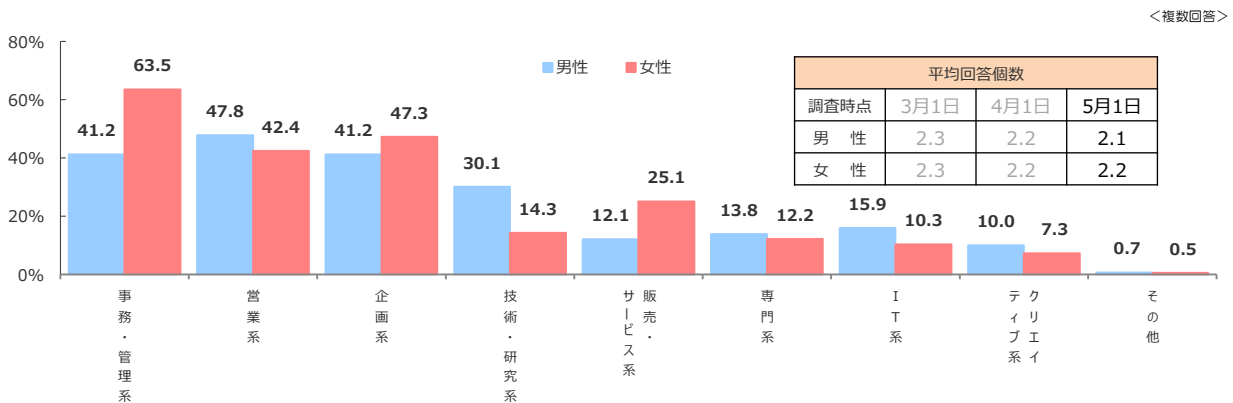
男女別に見ると、男性は上位から「営業系」が最も多く、次いで「企画系」「事務・管理系」となった。女性は、「事務・管理系」が突出して高い（図8.2）。

文理別に見ると、文系は「事務・管理系」の志望者が6割を超え、「企画系」「営業系」の志望者は5割を超えている。理系は、「技術・研究系」の志望者が6割を超え、突出している（図8.3）。

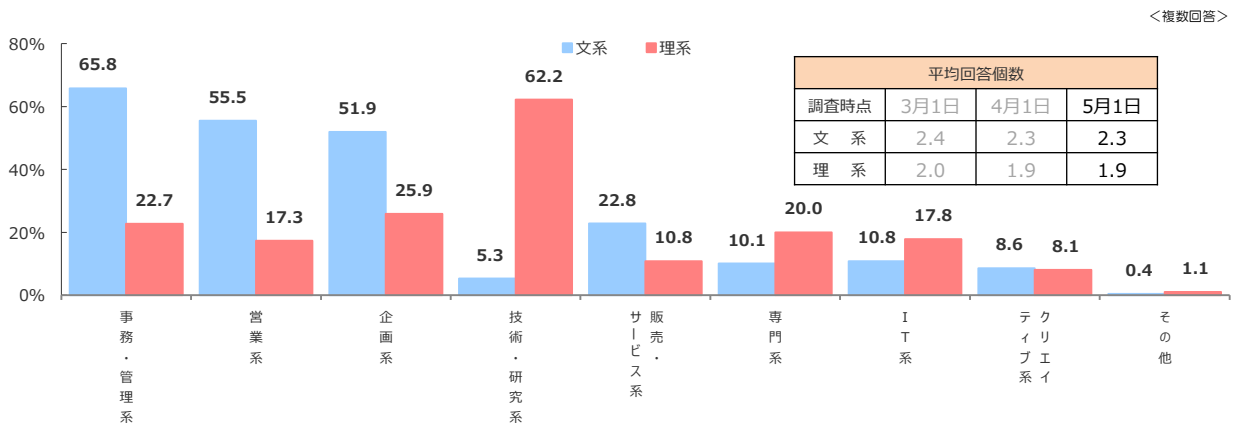
【図8.1】 志望している職種は何か



【図8.2】 志望している職種は何か：男女別（n=659）



【図8.3】 志望している職種は何か：文理別（n=659）

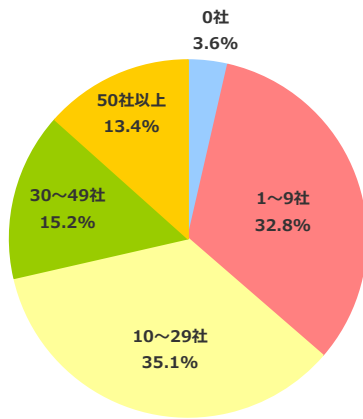


応募企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでいる学生に対し、5月1日までに採用選考に応募した企業数を聞いた。結果は、「1～9社」が32.8%、「10～29社」が35.1%となった（図9.1）。

平均社数を見ると、全体では平均21.5社となった。男女別では男性よりも女性が、文理別では理系よりも文系の方が応募企業数が多くなっている（図9.2）。また、平均社数の推移を見ると、先月と同程度の社数となった。（図9.3）。

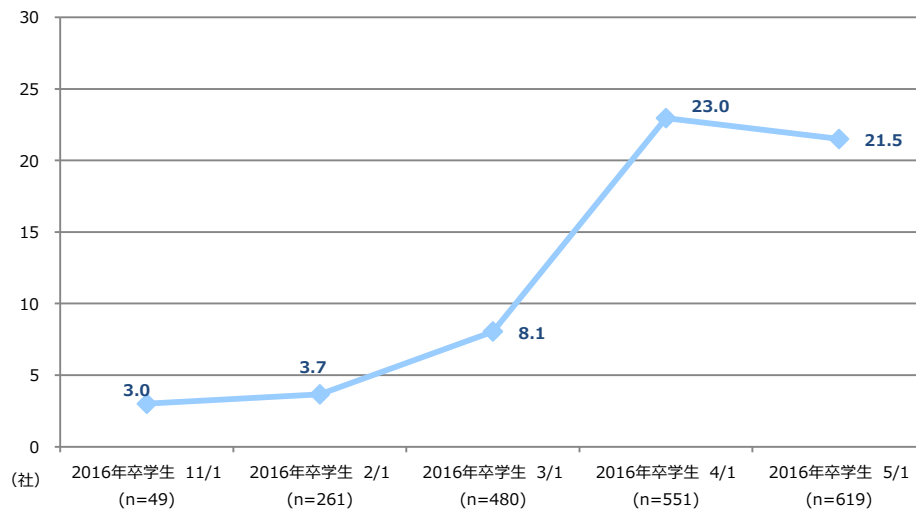
【図9.1】 選考に応募した企業数／回答分布 （n=619）



【図9.2】 選考に応募した企業数／平均 （n=619）

		平均 (社)
全体		21.5
男女別	男性	20.7
	女性	22.1
文理別	文系	22.4
	理系	19.2
対する企業規模に志向別	大企業志向	26.6
	中小企業志向	17.1
	企業規模は全く意識していない	13.2

【図9.3】 選考に応募した企業数の推移／平均



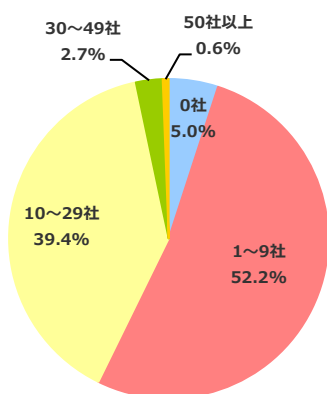
エントリーシート・履歴書提出企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「エントリー活動段階」以降に進んでいる学生に対し、5月1日までにエントリーシートや履歴書を提出した企業数を聞いた。結果は、「1~9社」と回答した学生が最も多く、52.2%に上った（図10.1）。

また、平均社数は全体で9.0社となっており、大企業志向の学生は提出企業数が多い傾向となっている（図10.2）。

さらに、平均社数の推移を見ると、4月1日状況調査で4.6社だった平均社数は、今回の調査で9.0社と大幅な増加となった（図10.3）。

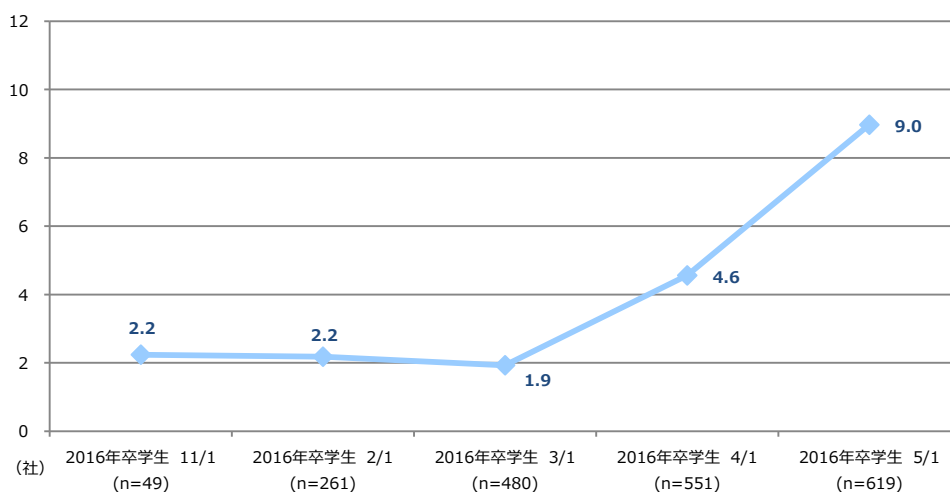
【図10.1】エントリーシート・履歴書提出企業数／回答分布
(n=619)



【図10.2】エントリーシート・履歴書提出企業数／平均
(n=619)

		平均 (社)
全体		9.0
男女別	男性	9.1
	女性	8.9
文理別	文系	9.3
	理系	8.1
対する企業規模に別	大企業志向	10.3
	中小企業志向	7.9
	企業規模は全く意識していない	6.7

【図10.3】エントリーシート・履歴書提出企業数の推移／平均



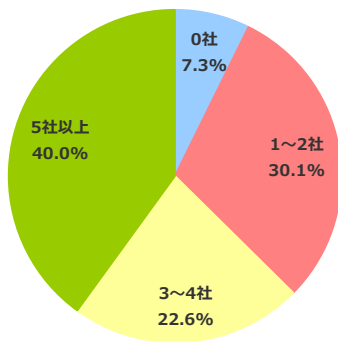
面接選考企業数

「1 就職活動の進捗状況」において、就職活動が「面接・試験段階」以降に進んでいる学生に対し、5月1日までに面接の選考（グループワークやグループディスカッションも含む）を行った企業数を聞いた。結果は、「5社以上」と回答した学生が最も多く、40.0%だった（図11.1）。

平均社数を見ると、全体では平均4.5社となっており、女性よりも男性、理系よりも文系の方が、平均が高い（図11.2）。

さらに、平均社数の推移を見ると、4月1日状況調査の2.6社から大きく増加している。2016年卒学生の進捗状況は、2015年卒学生の採用広報活動の開始2ヵ月（「2015年3月卒業予定者の就職活動に関する調査 2014年1月末状況」）と比較して早く、採用広報活動開始4ヵ月後の調査（「2015年3月卒業予定者の就職活動に関する調査 2014年4月末状況」）とほぼ同じ状況となっている（図11.3）。

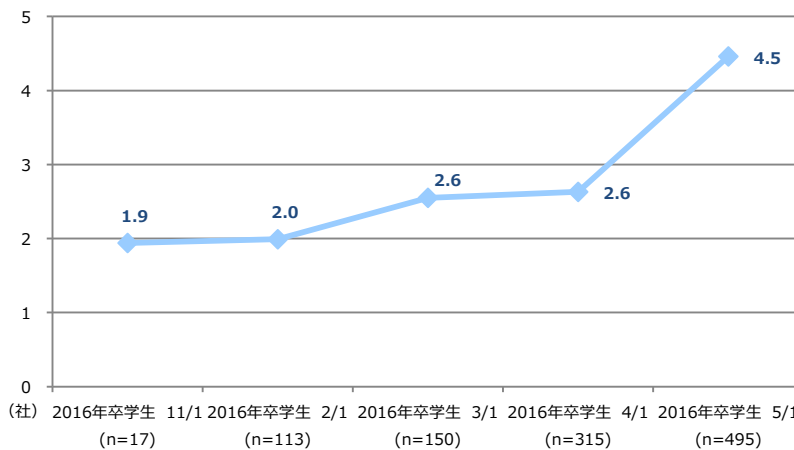
【図11.1】面接選考企業数／回答分布（n=495）



【図11.2】面接選考企業数／平均（n=495）

		平均（社）
全体		4.5
男女別	男性	4.6
	女性	4.3
文理別	文系	4.7
	理系	3.8
対する志向別 企業規模に	大企業志向	4.7
	中小企業志向	4.2
	企業規模は全く意識していない	4.2

【図11.3】面接選考企業数の推移／平均



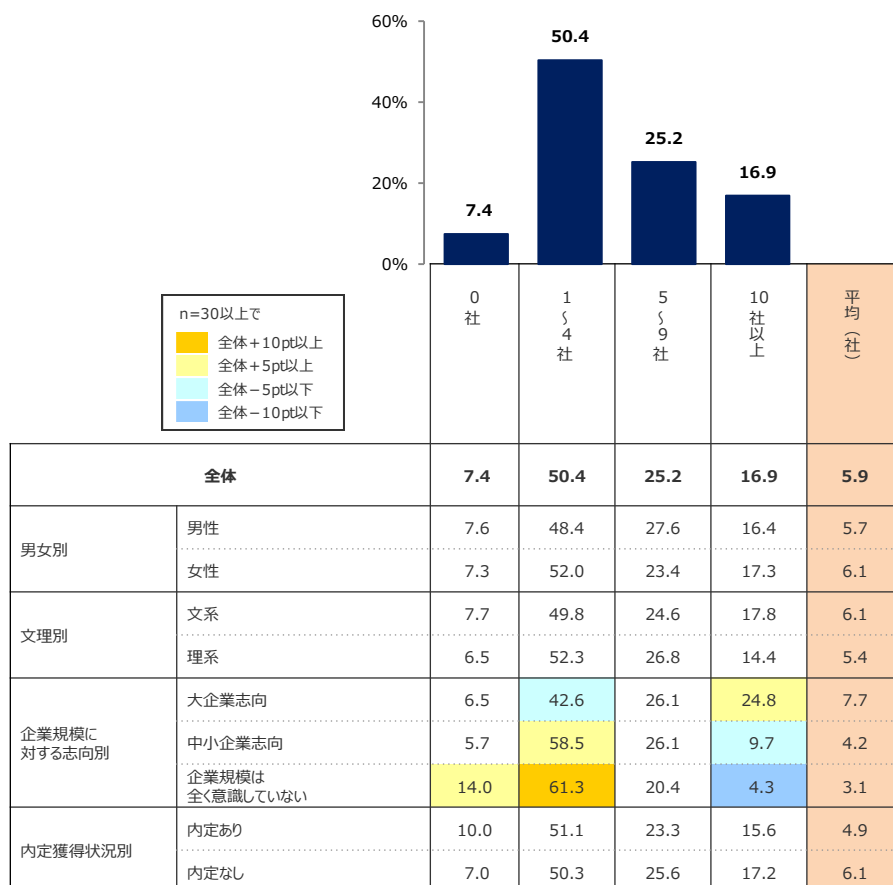
2015卒学生との比較		
調査時点		平均（社）
1/31	（前年同期）	2.5
4/30	（前年同月）	4.4

現在選考中の企業数

学生に、5月1日時点において「選考中（応募はしているが、選考途中であり最終的な結果が出ていない状態）」の企業がどのくらいあるかを聞いた。結果は「1～4社」が50.4%、「5～9社」25.2%、「10社以上」16.9%、「0社」7.4%となり、平均は5.9社となっている。

企業規模に対する志向別に見ると、大企業志向の学生の方が選考中の企業数が多い傾向にあり、より積極的な活動を行っている様子がうかがえる（図12）。

【図12】5月1日時点で“選考中”の企業数（n=579）



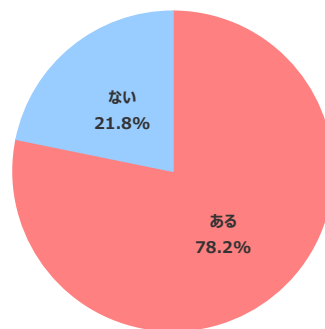
企業への新たな応募予定（5月）

学生に、今月（5月）の就職活動において、新たに企業に応募する予定があるかを聞いた。結果は、「ある」と回答した学生が78.2%、「ない」と回答した学生が21.8%だった（図13.1）。

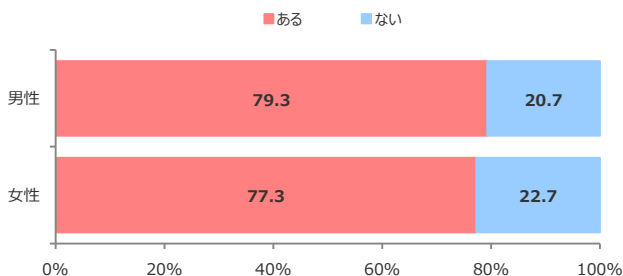
男女別では、男女における違いはほとんど見られなかった（図13.2）。

内定の獲得状況別に見ると、内定の有無にかかわらず、70%以上の学生が新たに応募する企業が「ある」としており、就職活動の継続意向が強いことがうかがえる（図13.3）。

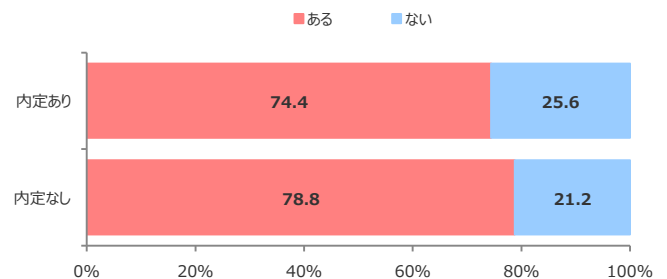
【図13.1】今月、新たに企業に応募する予定はあるか（n=641）



【図13.2】今月、新たに企業に応募する予定はあるか
：男女別（n=641）



【図13.3】今月、新たに企業に応募する予定はあるか
：内定獲得状況別（n=641）

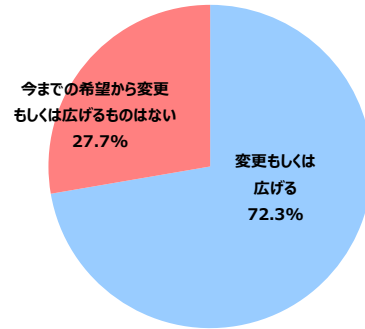


新たに企業に応募する際に 変更または広げる条件

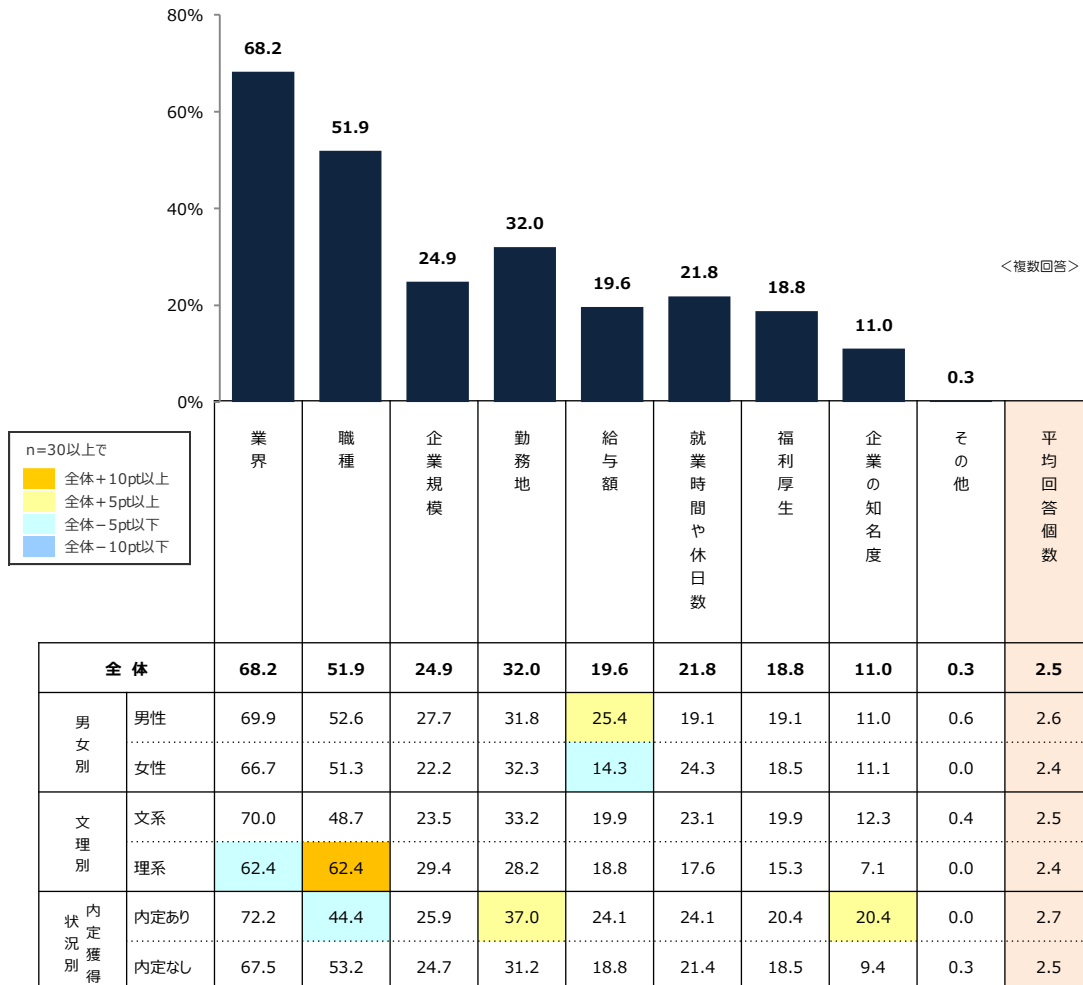
「13 企業への新たな応募予定（5月）」において、新たに企業に応募する予定が「ある」と回答した学生に対し、企業を選定・応募する際に、今まで希望していた条件から変更もしくは広げようと考えているものがあるかを聞いた。「今までの希望から変更もしくは広げるものはない」が27.7%で、何らかの条件を「変更もしくは広げる」と回答した者は、72.3%となった（図14.1）。

また、「変更もしくは広げる」と回答した学生に、新たに応募しようとしている企業について、変更もしくは広げようとしている条件を聞いた。回答が多かった順に、「業界」68.2%、「職種」51.9%、「勤務地」32.0%となった（図14.2）。

【図14.1】 今月新たに企業を選定・応募する際に、今まで希望していた条件から変更もしくは広げようと考えているものがあるか (n=501)



【図14.2】 今月新たに企業を選定・応募する際に、今まで希望していた条件から変更もしくは広げようと考えているものがあるか (n=362)



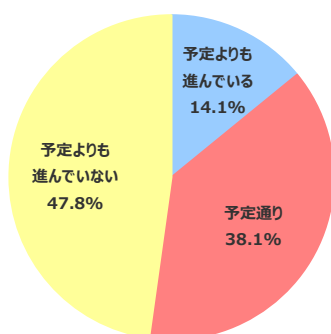
5月までの就職活動の進捗感

学生に、5月1日までにやってきた就職活動やその準備・対策を振り返り、どのように感じているかを聞いた。「予定よりも進んでいる」14.1%、「予定通り」38.1%、「予定よりも進んでいない」が47.8%となっている。「予定よりも進んでいる」「予定通り」を“順調”と捉えると、就職活動が予定よりも進んでいない学生と、順調に進んでいる学生はほぼ半々といった状況となっている（図15.1）。

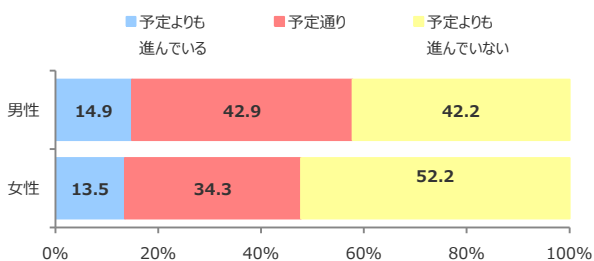
男女別では、女性よりも男性の方が就職活動を順調と感じている（図15.2）。

内定獲得状況別に比較すると、内定保持者の半数近くは「予定よりも進んでいる」と回答しており、進捗の早さを予想外と感じているようだ（図15.3）。

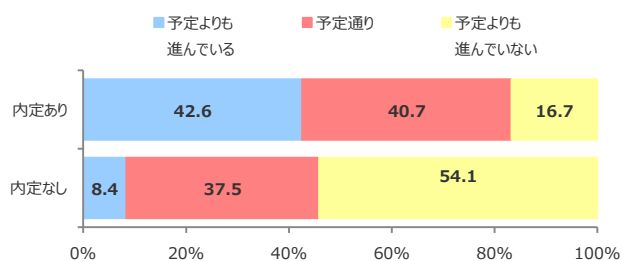
【図15.1】5月1日までにやってきた就職活動やその準備・対策を振り返り、どのように感じているか
(n=646)



【図15.2】5月1日までにやってきた就職活動やその準備・対策を振り返り、どのように感じているか
：男女別 (n=646)



【図15.3】5月1日までにやってきた就職活動やその準備・対策を振り返り、どのように感じているか
：内定獲得状況別 (n=646)

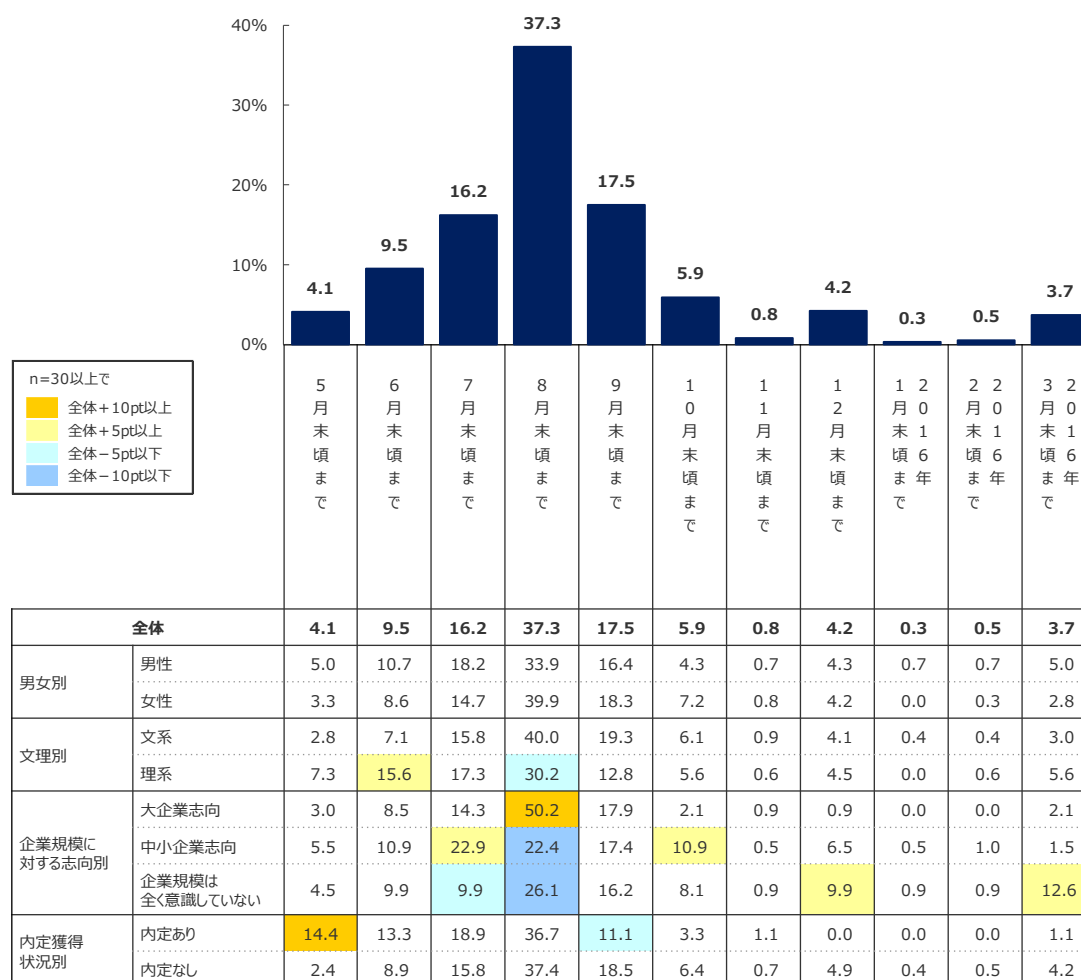


就職活動終了見込み時期

学生に、いつ頃までに就職活動を終わらせたいと考えているか聞いたところ、「8月末頃まで」が37.3%と最も多く、「9月末頃まで」17.5%、「7月末頃まで」16.2%と続いている。例年、採用選考が開始された後、1か月間の時期に内々定・内定も多く出始めるため、就職活動のスケジュール感として8月中に終了する（内々定・内定を得る）ことを目途として捉えている学生が多いようだ。

企業規模に対する志向別に見てみると、大企業志向の学生では「8月末頃まで」と回答する学生が50.2%と突出して高く、中小企業志向の学生は、「7月末頃まで」から「10月末頃まで」に回答が分散している（図16）。

【図16】いつ頃までに就職活動を終わらせたいと考えているか（n=641）



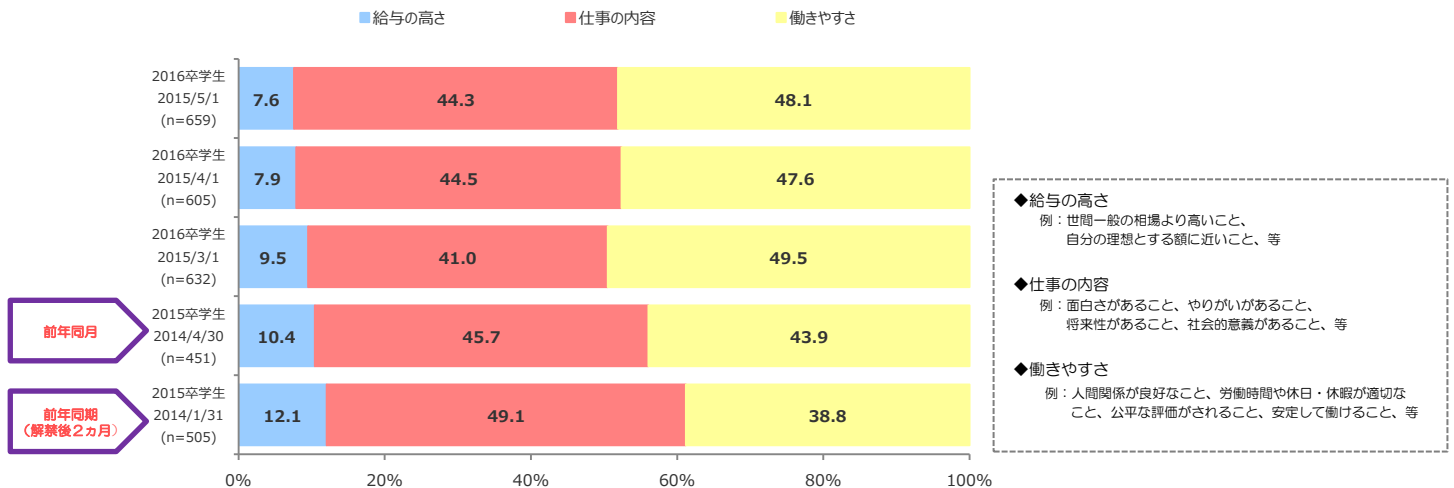
働く上で大切にしたいもの

学生に「給与の高さ」「仕事の内容」「働きやすさ」の3つのうち、働く上で大切にしたいと思うものを1つ挙げてもらった。結果は「給与の高さ」7.6%、「仕事の内容」44.3%、「働きやすさ」48.1%となり、「働きやすさ」に重きを置きたいと考えている学生が最も多かった。一方、前年度の採用広報活動の開始2ヵ月後の調査（「2015年3月卒業予定者の就職活動に関する調査 2014年1月末状況」）や、前年同月調査（「2015年3月卒業予定者の就職活動に関する調査 2014年4月末状況」）と比較すると、今年の学生の志向は「給与の高さ」や「仕事の内容」よりも「働きやすさ」が高い傾向にある（図17.1）。

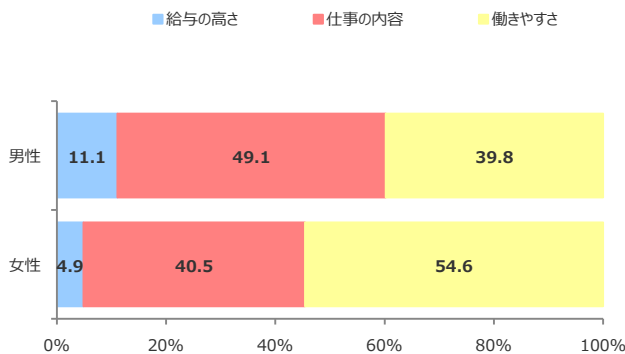
男女別に見ると、女性は、男性に比べて「働きやすさ」を回答した者の割合が54.6%と高く、男性と約15ポイントの差が生じている。一方、男性は、「仕事の内容」を挙げた者の割合が49.1%で最多となり、男性と女性の傾向の違いがはっきりと表れている（図17.2）。

文理別に見ると、文系は「働きやすさ」に重きを置きたいと考える学生が半数を超え、51.7%となっている。一方、理系は、「働きやすさ」よりも「仕事の内容」に重きを置きたいと考える学生の割合が高い（図17.3）。

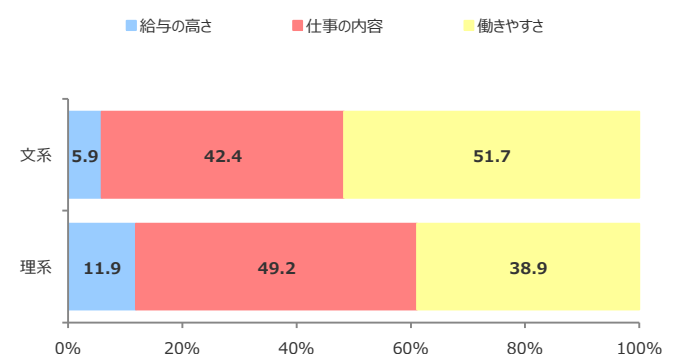
【図17.1】働く上で大切にしたいもの



【図17.2】働く上で大切にしたいもの：男女別 (n=659)



【図17.3】働く上で大切にしたいもの：文理別 (n=659)



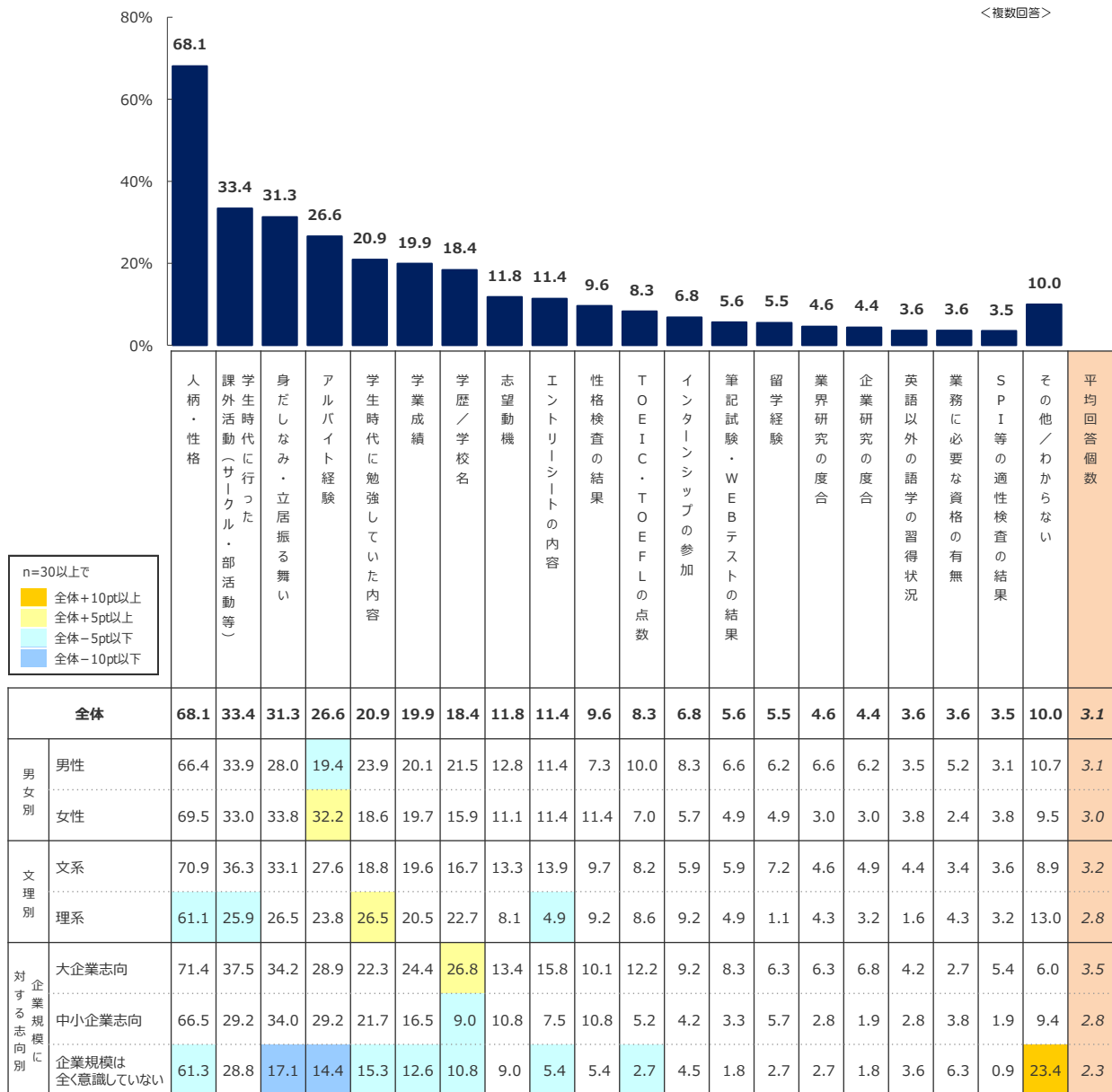
企業に評価される自信があるもの

学生に、企業側に評価される自信のあるものは何か聞いた。最も回答を集めたのは「人柄・性格」で、68.1%と突出して高くなっている。

男女別に見ると、女性は、「身だしなみ・立居振る舞い」や「アルバイト経験」において男性よりも自信を持っている傾向がある。

文理別に見ると、理系は文系よりも「人柄・性格」や「学生時代に行った課外活動（サークル・部活動等）」「アルバイト経験」の回答が低く、自信のない学生が多いようだ。その反面、「学生時代に勉強していた内容」「学歴/学校名」の回答割合が文系よりも高く、これらに自信を持っているのが特徴である（図18.1）。

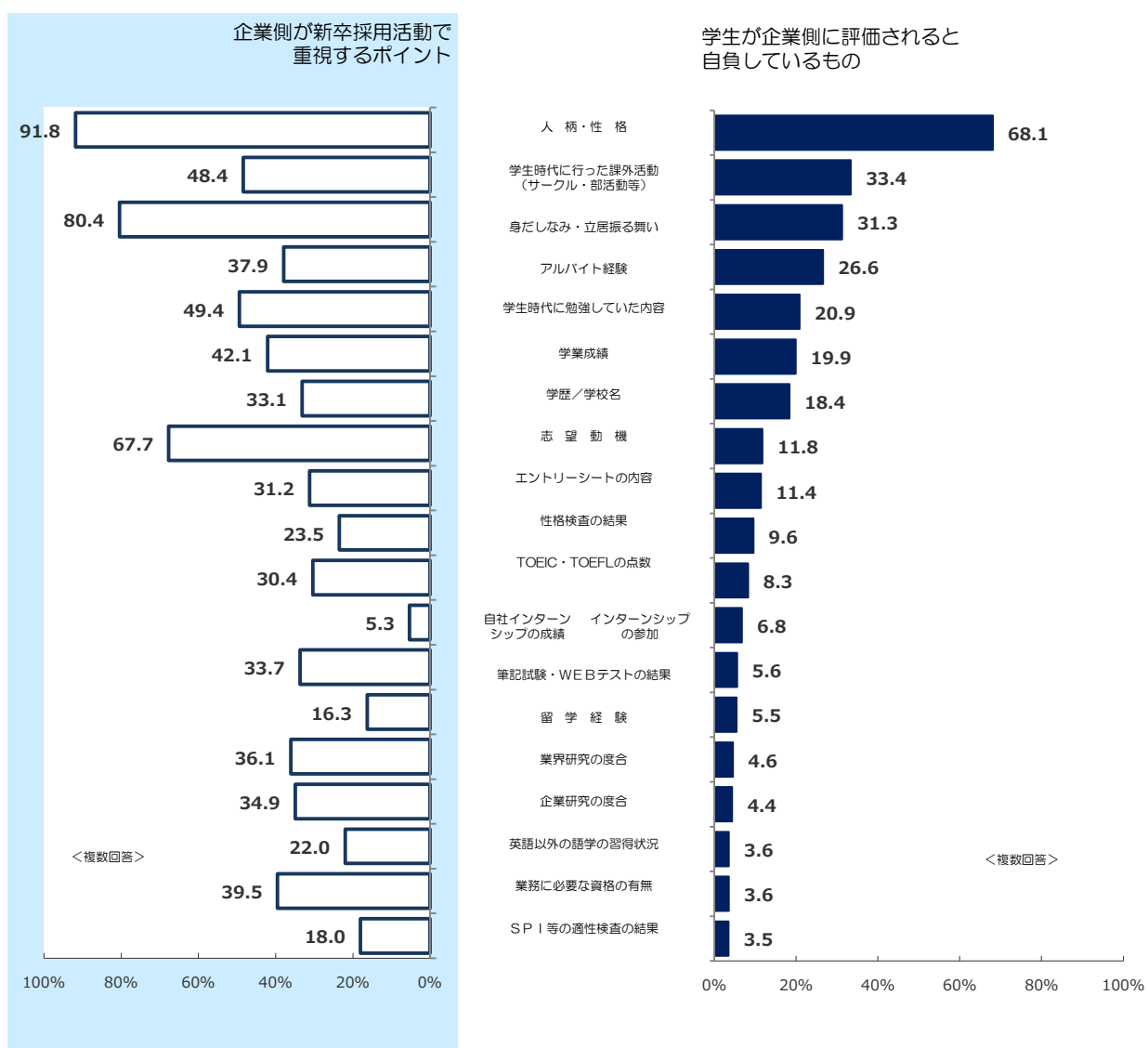
【図18.1】企業に評価される自信があるもの（n=659）



また、企業の新卒採用担当者1,000名を対象に行った「2016年度新卒採用に関する企業調査（2015年3月1日状況）」では、同様の項目について新卒採用活動で重視する割合を聞いているため、本調査の結果と比較した。

学生が企業側に評価されるものとして「人柄・性格」が挙げたが、多くの企業もこれを重視している。一方、企業側が重視するものとして3番目に高かった「志望動機」については、自信を持っていると回答した学生は11.8%に留まっていた（図18.2）。

【図18.2】企業に評価される自信があるもの：企業調査比較



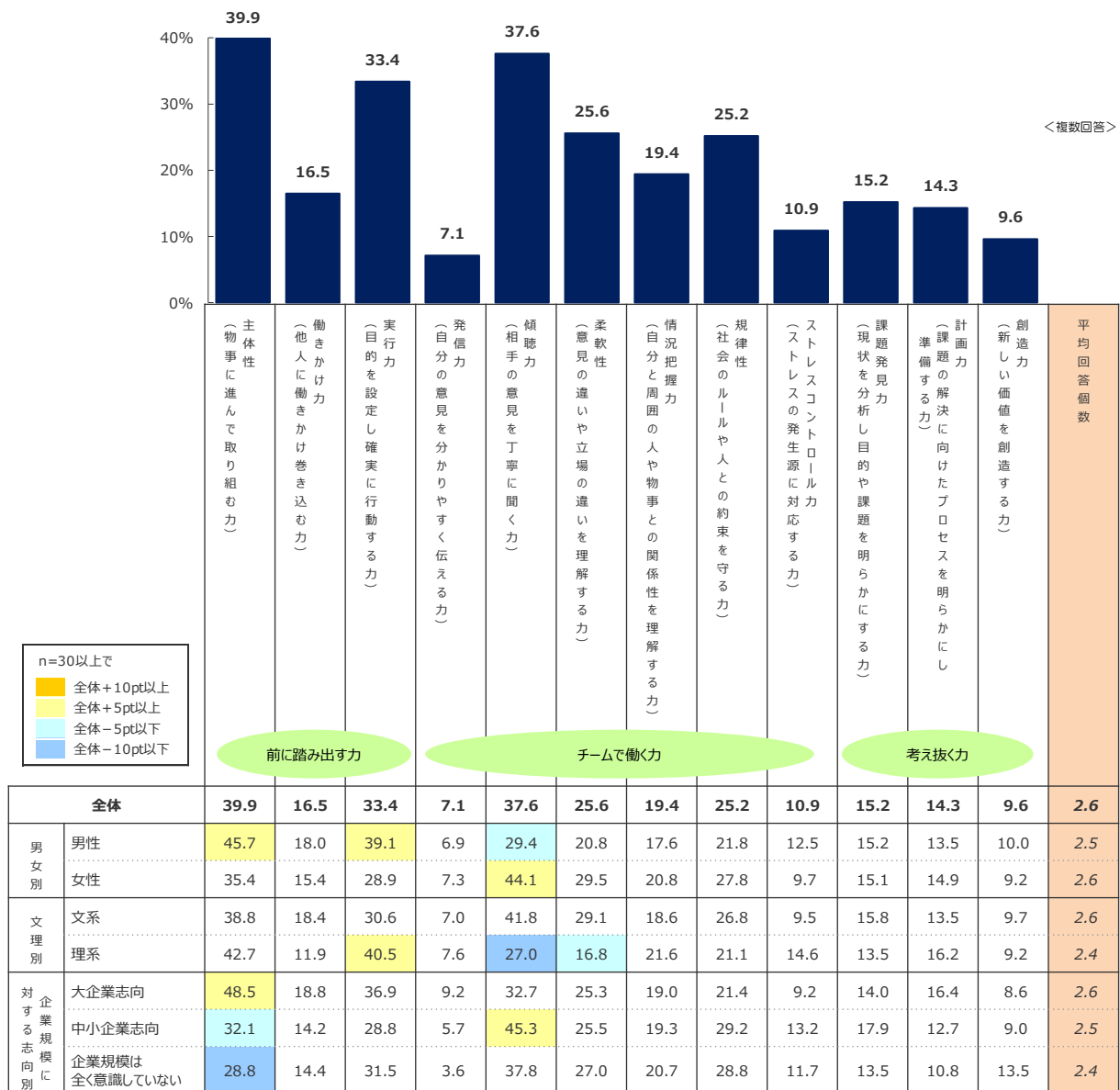
身につけている社会人基礎力

学生に、自身が身につけていると思う社会人基礎力について聞いた。最も多かったのは「主体性」で39.9%、次点は「傾聴力」で37.6%となった。

男女別に見ると、回答が多い順に、男性は「主体性」「実行力」「傾聴力」、女性は「傾聴力」「主体性」「柔軟性」となっている。

文理別に見ると、文系は上位から順に「傾聴力」「主体性」「実行力」が挙がっている。一方、理系では、上位に挙げた能力は同じものの、その順は「主体性」「実行力」「傾聴力」となっている。また、理系は、文系よりも「主体性」や「実行力」の回答割合が高く、「傾聴力」や「柔軟性」の回答割合が低いのも特徴である（図19.1）。

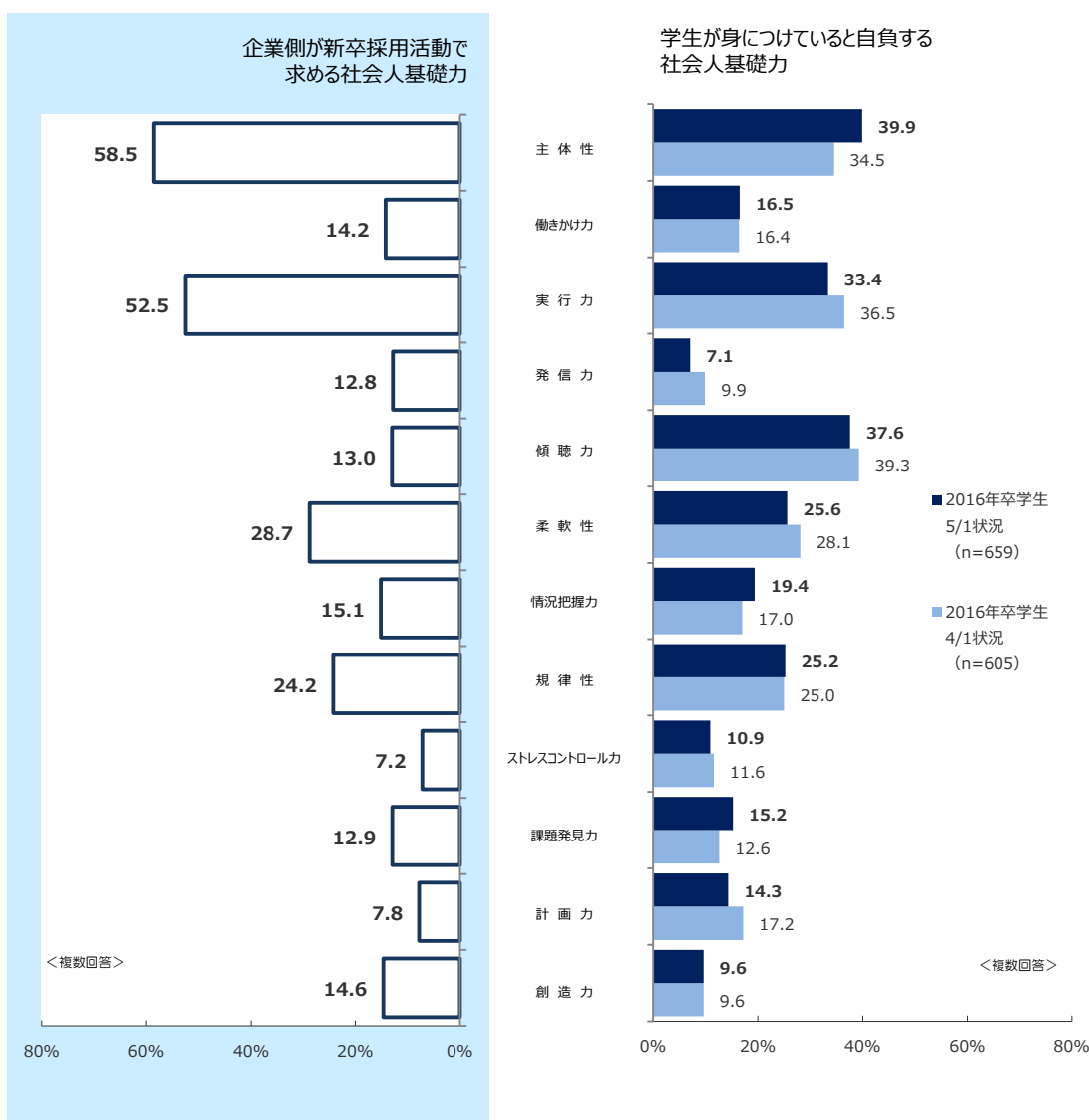
【図19.1】身につけている社会人基礎力 (n=659)



また、企業の新卒採用担当者1,000名を対象に行った「2016年度新卒採用に関する企業調査（2015年3月1日状況）」では、新卒採用活動において企業側が学生に求める社会人基礎力を聞いているため、本調査の結果と比較した。

企業側が学生に求める社会人基礎力は、「主体性」と「実行力」が突出して高い。学生側が身につけていると自負している能力で最多だった回答は、4月1日状況調査では「傾聴力」、5月1日状況調査では「主体性」となっている。学生は、就職活動を進めるなかで企業の“求める人物像”に触れ、それらを意識し始めている可能性もある（図19.2）。

【図19.2】身につけている社会人基礎力：企業調査比較



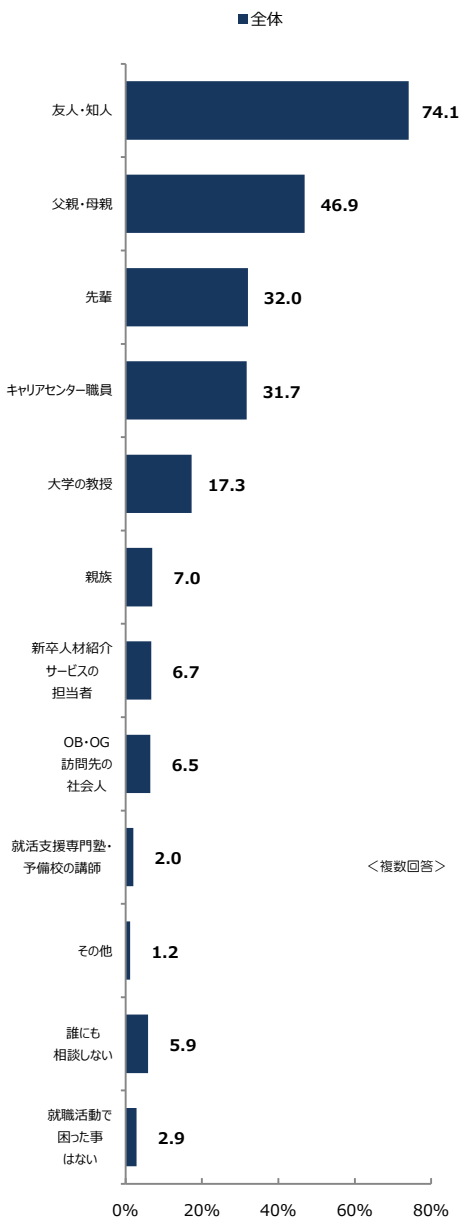
就職活動における相談相手

学生に、就職活動に関する相談を誰にしているか聞いた。全体では、「友人・知人」という回答が多く、74.1%だった。次いで、「父親・母親」46.9%、「先輩」32.0%、「キャリアセンター職員」31.7%の順となっている（図20.1）。

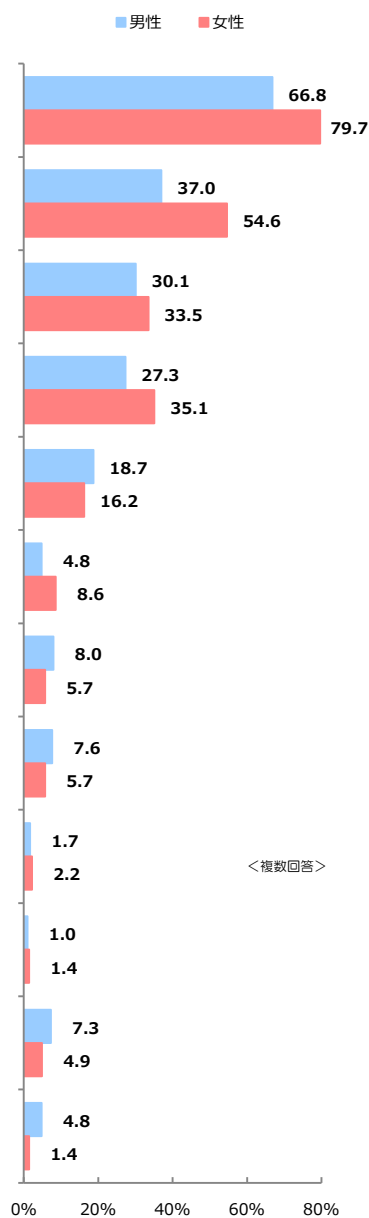
男女別で見ると、女性は「友人・知人」や「父親・母親」に相談している割合が男性よりも大幅に高い。特に、「父親・母親」の回答割合は54.6%となり、男性の37.0%と15ポイント以上の差が生じている（図20.2）。

文理別で見ると、理系は文系よりも「大学の教授」に相談している割合がやや高くなっている（図20.3）。

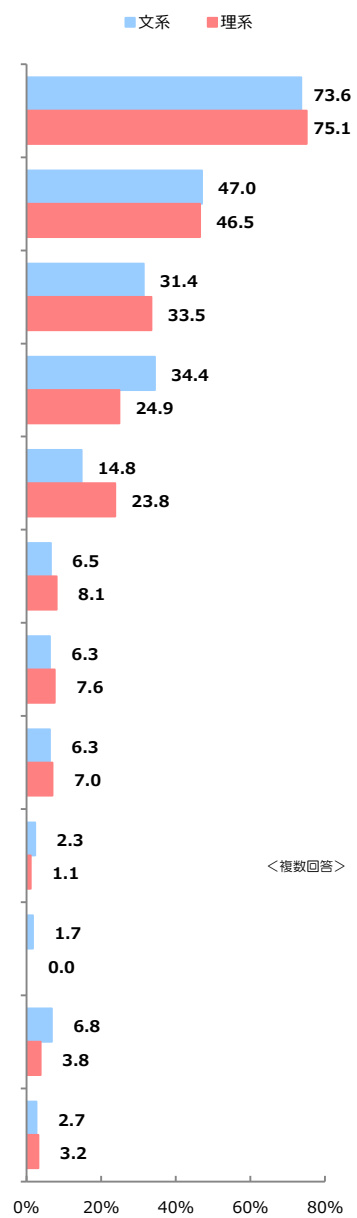
【図20.1】就職活動に関する相談を誰にしているか
(n=659)



【図20.2】就職活動に関する相談を誰にしているか
：男女別 (n=659)



【図20.3】就職活動に関する相談を誰にしているか
：文理別 (n=659)



キャリアアンカー

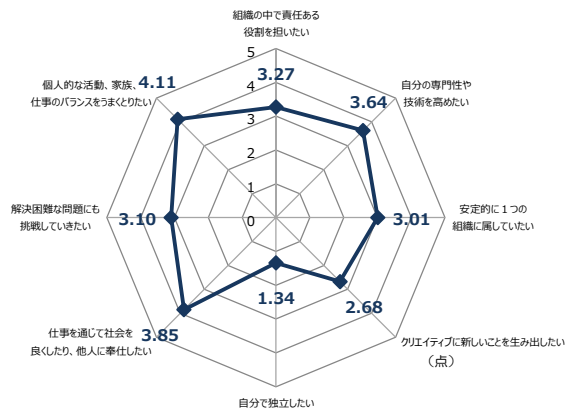
学生に、キャリアアンカー（個人が自身のキャリアを選択する際に、最も大切に他に譲ることのない価値観や欲求）について聞いた。全8項目（「管理能力」「技術的・機能的能力」「安全性」「創造性」「自律と独立」「奉仕・社会献身」「純粋な挑戦」「ワーク・ライフ・バランス」）に対し、各5点満点で合計が25点になるように点数をつけてもらい、平均化している。全体の傾向では、「個人的な活動、家族、仕事のバランスをうまくとりたい」の点数が4.11点で最も高く、「自分で独立したい」は1.34点で最低点となった（図21.1）。

男女別で見ると、女性は男性よりも「個人的な活動、家族、仕事のバランスをうまくとりたい」や「仕事を通じて社会を良くしたり、他人に奉仕したい」の点数が高い。その一方で、「自分で独立したい」の点数は低くなっており、ワーク・ライフ・バランスや安定性を意識している様子がうかがえる（図21.2）。

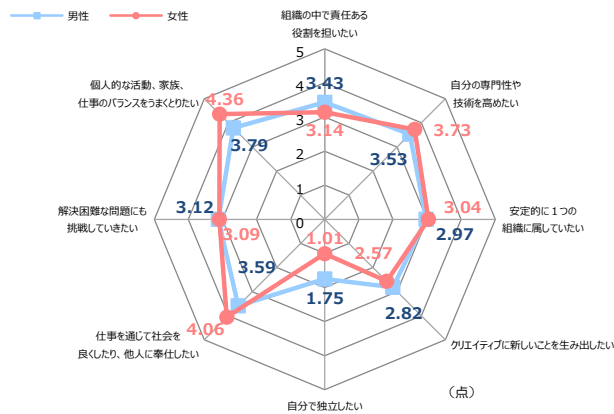
文理別で見ると、理系は文系よりも「自分の専門性や技術を高めたい」の点数が高くなっている（図21.3）。

また、企業の新卒採用担当者1,000名を対象に行った「2016年度新卒採用に関する企業調査（2015年3月1日状況）」では、新卒採用活動において企業側がアピールポイントとしているものは何か、同様の項目・形式を用いている。本調査の結果と比較すると、学生がワーク・ライフ・バランスを最も重視している傾向があるのに対し、企業側のワーク・ライフ・バランスに関する項目の点数は最も低い。学生が求める価値観と企業側のアピールが合致していない様子が浮き彫りになっている（図21.4）。

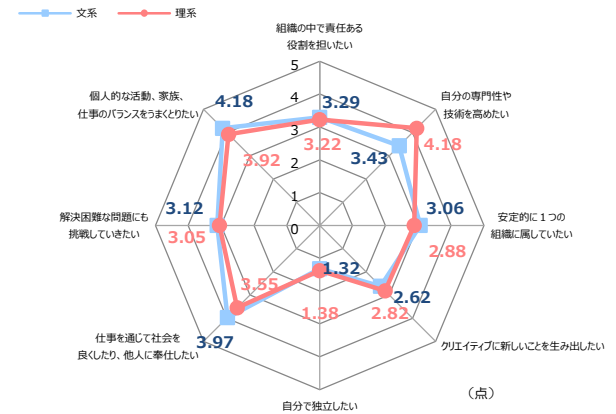
【図21.1】キャリアアンカー（n=659）



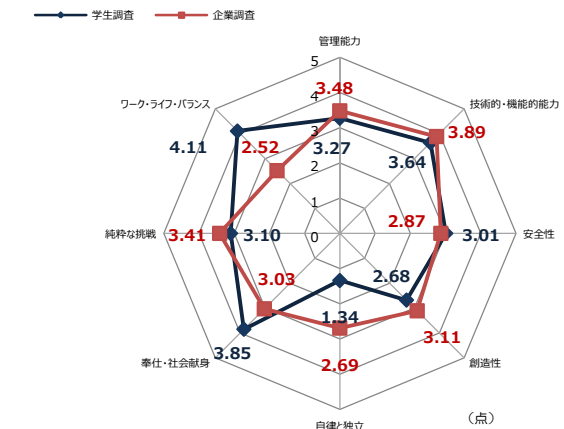
【図21.2】キャリアアンカー：男女別（n=659）



【図21.3】キャリアアンカー：文理別（n=659）



【図21.4】キャリアアンカー：企業調査比較

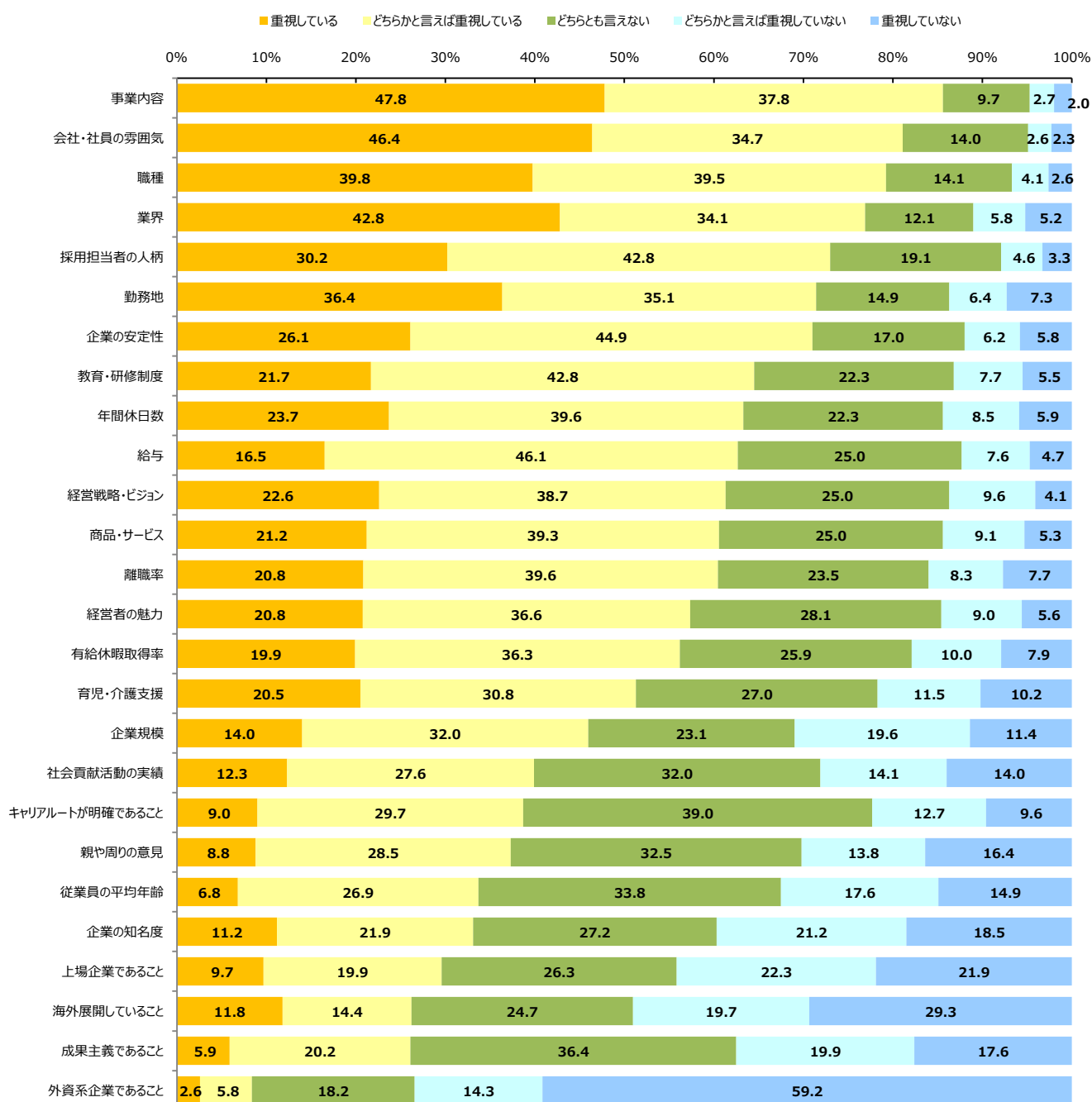


学生側への聴取項目		企業側への聴取項目
組織の中で責任ある役割を担いたい	管理能力	組織を統率し、責任ある役割を任せること
自分の専門性や技術を高めたい	技術的・機能的能力	専門性や技術を高められること
安定的に1つの組織に属していたい	安全性	社会的・経済的に安定的なこと
クリエイティブに新しいことを生み出したい	創造性	クリエイティブに新しいことを生み出せること
自分で独立したい	自律と独立	ルールに縛られず、自律的に仕事を進められること
仕事を通じて社会を良くしたり、他人に奉仕したい	奉仕・社会献身	会社を通じて、社会貢献できること
解決困難な問題にも挑戦していきたい	純粋な挑戦	難しい課題にも挑戦できること
個人的な活動、家族、仕事のバランスをうまくとりたい	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスが実現可能なこと

企業選定の際に重視するもの

学生に、志望企業を選定する際に、以下の26項目をどの程度重視するかを聞いた。重視派（「重視している」と「どちらかと言えば重視している」の合計／以下同）が多かったのは、順に「事業内容」「会社・社員の雰囲気」「職種」「業界」「採用担当者の人柄」だった。反対に、非重視派（「重視していない」と「どちらかと言えば重視していない」の合計／以下同）が多かったのは、「外資系企業であること」「海外展開していること」「上場企業であること」だった（図22.1）。

【図22.1】志望企業を選定する際に、以下の項目をどの程度重視するか（n=659）



また、各項目に対する重視派の割合を、過去の調査と比較した。4月1日状況調査と比べると、それほど大きな変化は見られないが、全体的に各選択肢とも回答割合が減少する傾向にあった。

さらに、前年の採用広報活動の開始約2ヵ月後の調査（「2015年3月卒業予定者の就職活動に関する調査 2014年1月末状況」）と比較すると、今回の調査は各項目に対する重視派の割合が高くなっている。特に、「年間休日数」や「教育・研修制度」「採用担当者の人柄」「有給休暇取得率」「育児・介護支援」等で差が大きい。ここからは、2016年卒学生が2015年卒学生に比べて“働きやすさ”にこだわっている様子がうかがえる（図22.2）。

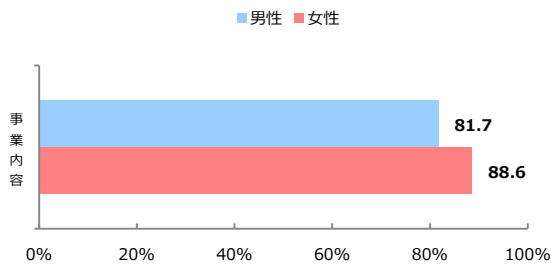
【図22.2】志望企業を選定する際に重視する項目

		① 2016卒学生 2015/5/1 (n=659)	② 2016卒学生 2015/4/1 (n=605)	①-② +5pt以上 -5pt以下	③ 2015卒学生 2014/1/31 (n=505)	①-③ +5pt以上 -5pt以下
		(%)	(%)	(ポイント)	(%)	(ポイント)
1	事業内容	85.6	85.6	0.0	85.5	0.1
2	会社・社員の雰囲気	81.2	83.5	-2.3	82.4	-1.2
3	職種	79.2	79.7	-0.5	79.0	0.2
4	業界	76.9	79.2	-2.3	78.8	-1.9
5	採用担当者の人柄	73.0	72.4	0.6	66.3	6.7
6	勤務地	71.5	73.1	-1.6	71.1	0.4
7	企業の安定性	71.0	69.8	1.2	67.5	3.5
8	教育・研修制度	64.5	65.6	-1.1	57.4	7.1
9	年間休日数	63.3	65.3	-2.0	53.5	9.8
10	給与	62.7	63.8	-1.1	57.8	4.9
11	経営戦略・ビジョン	61.3	65.3	-4.0	58.6	2.7
12	商品・サービス	60.5	64.3	-3.8	66.9	-6.4
13	離職率	60.4	60.5	-0.1	56.0	4.4
14	経営者の魅力	57.4	59.2	-1.8	56.2	1.2
15	有給休暇取得率	56.1	59.3	-3.2	49.7	6.4
16	育児・介護支援	51.3	54.7	-3.4	45.0	6.3
17	企業規模	46.0	46.6	-0.6	44.2	1.8
18	社会貢献活動の実績	39.9	44.3	-4.4	37.4	2.5
19	キャリアルートが明確であること	38.7	41.0	-2.3	38.6	0.1
20	親や周りの意見	37.3	37.2	0.1	33.9	3.4
21	従業員の平均年齢	33.7	37.4	-3.7	31.1	2.6
22	企業の知名度	33.1	37.0	-3.9	38.0	-4.9
23	上場企業であること	29.6	33.6	-4.0	28.5	1.1
24	海外展開していること	26.3	28.6	-2.3	24.2	2.1
25	成果主義であること	26.1	27.8	-1.7	24.8	1.3
26	外資系企業であること	8.3	10.6	-2.3	8.7	-0.4

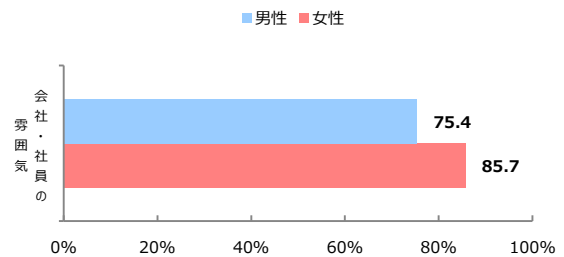
企業選定の際に重視するもの 〈男女別〉

学生に、志望企業を選定する際に、以下の26項目をどの程度重視するかを聞き、重視派の割合を男女別に比較した。全体的に、男性よりも女性の方が重視する項目が多くなっている。特に、「会社・社員の雰囲気」「採用担当者の人柄」「勤務地」「教育・研修制度」においてはその傾向が強く、男性よりも10ポイント以上高くなっている（図23.2・図23.5・図23.6・図23.8）。

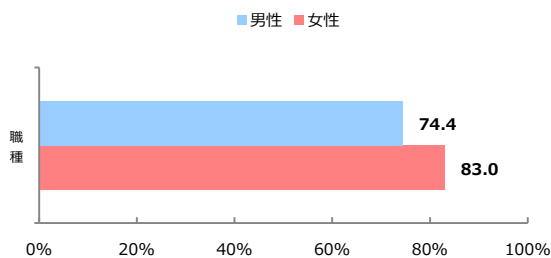
【図23.1】事業内容



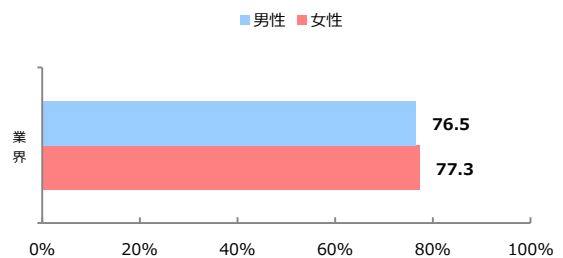
【図23.2】会社・社員の雰囲気



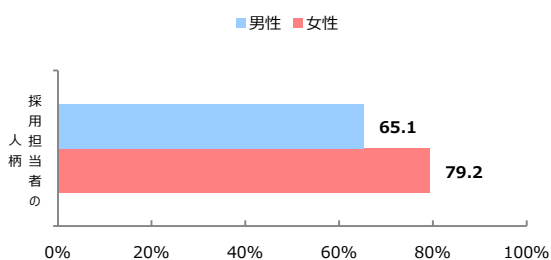
【図23.3】職種



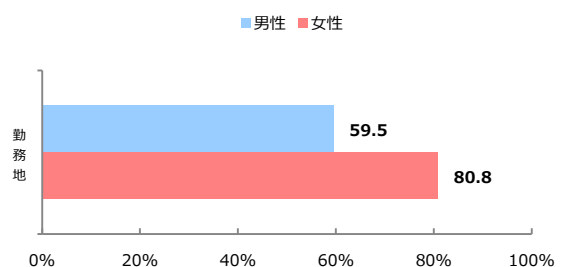
【図23.4】業界



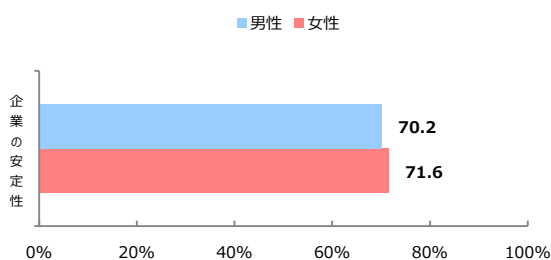
【図23.5】採用担当者の人柄



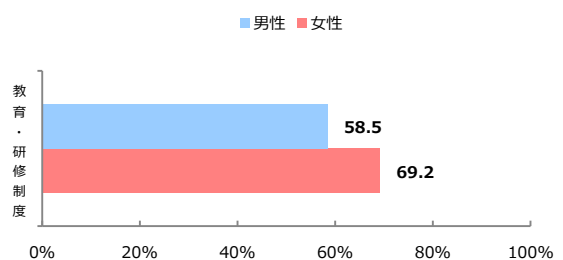
【図23.6】勤務地



【図23.7】企業の安定性



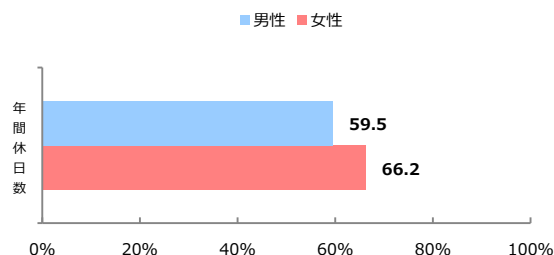
【図23.8】教育・研修制度



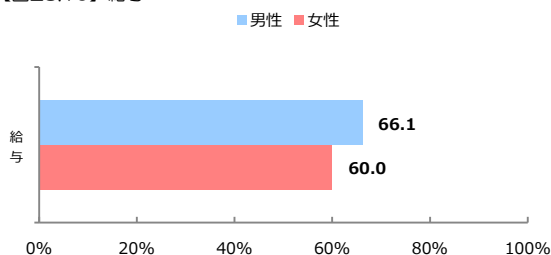
「年間休日数」「経営戦略・ビジョン」「商品・サービス」「離職率」「経営者の魅力」「有給休暇取得率」「育児・介護支援」(図23.9・図23.11・図23.12・図23.13・図23.14・図23.15・図23.16)においても、女性の方が男性よりも重視派の割合が高い。特に、「育児・介護支援」では、女性の重視派の割合は男性を2倍以上上回り、女性がこれらをいかに重視しているかがうかがえる。

一方、「給与」「企業規模」においては、女性よりも男性の方が重視している傾向にあった(図23.10・図23.17)。

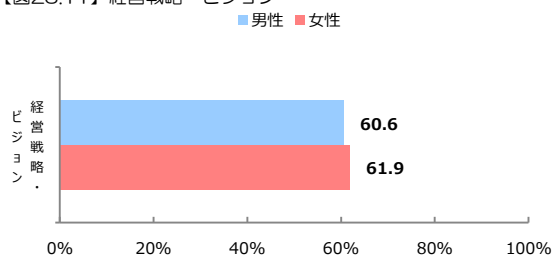
【図23.9】年間休日数



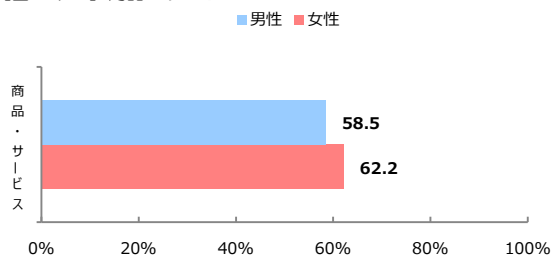
【図23.10】給与



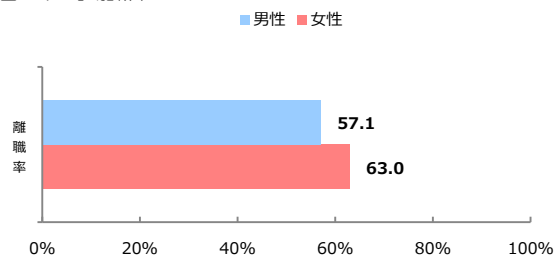
【図23.11】経営戦略・ビジョン



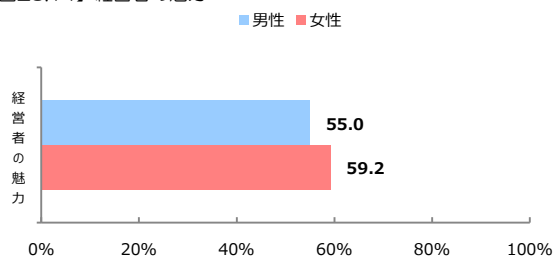
【図23.12】商品・サービス



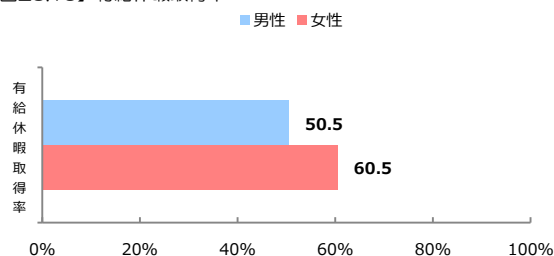
【図23.13】離職率



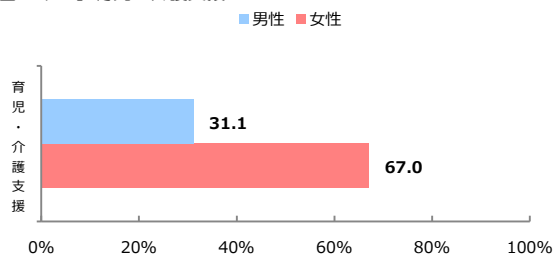
【図23.14】経営者の魅力



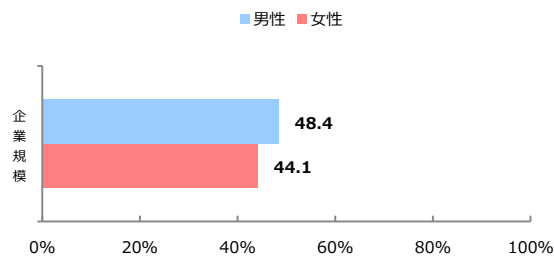
【図23.15】有給休暇取得率



【図23.16】育児・介護支援

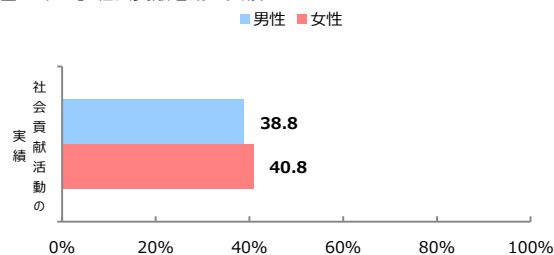


【図23.17】企業規模

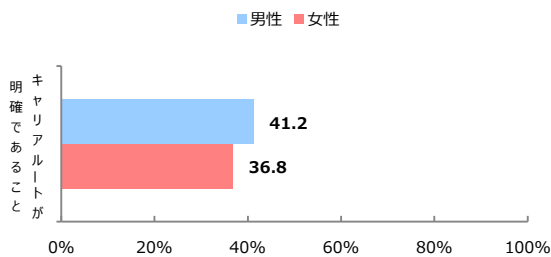


「キャリアルートが明確であること」「従業員の平均年齢」「企業の知名度」「上場企業であること」「海外展開していること」「成果主義であること」「外資系企業であること」においては、男性の重視派の割合が女性よりも高くなっている（図23.19・図23.21・図23.22・図23.23・図23.24・図23.25・図23.26）。

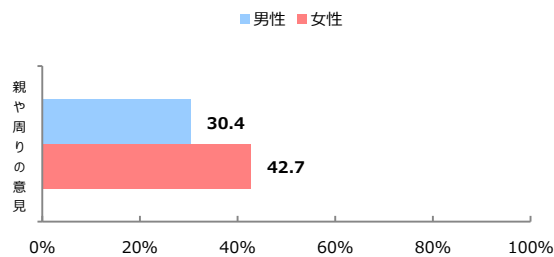
【図23.18】社会貢献活動の実績



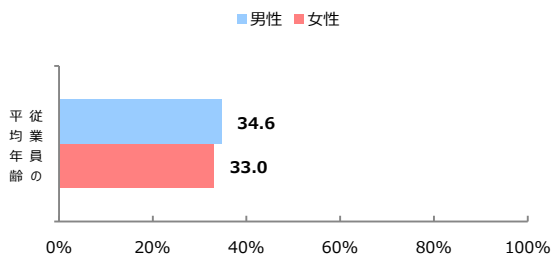
【図23.19】キャリアルートが明確であること



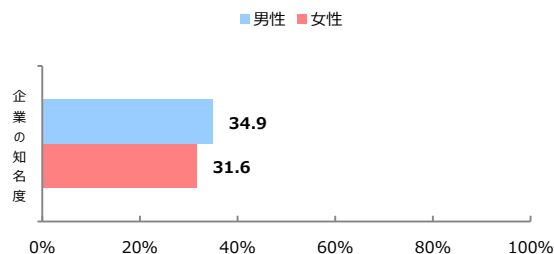
【図23.20】親や周りの意見



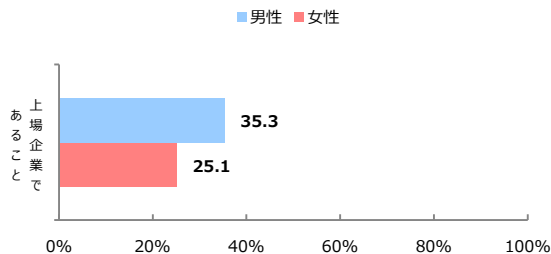
【図23.21】従業員の平均年齢



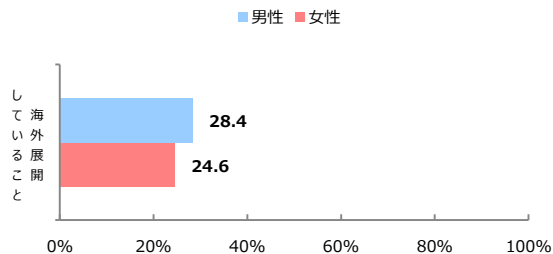
【図23.22】企業の知名度



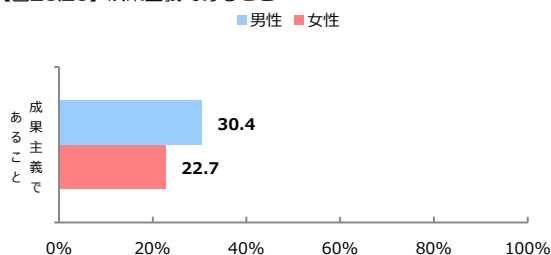
【図23.23】上場企業であること



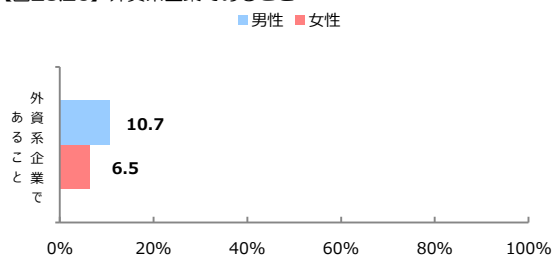
【図23.24】海外展開していること



【図23.25】成果主義であること



【図23.26】外資系企業であること



就職活動での不安

学生に、就職活動で感じる不安を聞くと、「交通費や就活グッズ（スーツやカバン等）などの費用がかかること」が50.1%で最多となった。以降は、「内定が取れないかもしれないこと」48.8%、「自分の何を評価されるのかわからないこと」44.5%と続いている。

4月1日状況調査と比べ、上位の項目については大きな変化はないが、全体的に各項目の回答割合は減少している。就職活動が本格化し、応募・選考が進むにつれて自身の方向性が少しずつ見えてきた様子が感じられる（図24.1）。

男女別に見ると、男性に比べて女性の方が不安を感じている割合が圧倒的に高い（図24.2）。

文理別に見ると、理系は「就職活動と勉強の両立が難しいこと」が文系に比べ大幅に高く、学業との両立を強く懸念している様子がうかがえる（図24.3）。

【図24.1】就職活動で感じる不安
(n=641)

【図24.2】就職活動で感じる不安
：男女別 (n=641)

【図24.3】就職活動で感じる不安
：文理別 (n=641)

